

Quality is more than a word

ESPEC

Sustainability Report 2019

サステナビリティレポート

編集方針

- エスペック株式会社の発行するサステナビリティレポートは、私たちが果たす社会的責任や持続可能な社会に関する考え方と活動についてステークホルダーのみなさまにわかりやすくお伝えし、ご理解いただくことを目的としています。
- 本誌では、ステークホルダーのみなさまや社会の関心が高く、なおかつエスペックにとって重要な取り組みから内容を選択して企画・編集しました。今回の特集では、事業活動を通じた貢献について取りあげました。また、最近の主な活動をご紹介しますESPEC NEWSを設けています。
- 本誌では、私たちの事業とSDGs(持続可能な開発目標)との関連についてご紹介する項目を新たに加えています。
- 企業活動の報告に関しては「コーポレートガバナンス」「社会性パフォーマンス」「環境パフォーマンス」の3部構成としています。また、私たちの取り組みとSDGsの各目標との関連性についてSDGsのアイコンで示しています。
- エスペックのホームページでも関連情報を開示しています。
<https://www.espec.co.jp/>

対象範囲

【対象組織】

エスペックグループの主要な関係会社・事業所を対象としています。ただし、全ての項目についてカバーしているのではなく、各社の規模や事業内容に応じて記載しています。

【対象期間】

主に2018年度(2018年4月1日~2019年3月31日)を対象期間としています。一部2019年度の活動についても掲載しています。

参考にしたガイドラインなど

- ・環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」
- ・GRI(Global Reporting Initiative)
サステナビリティ・レポート・スタンダード

発行時期

毎年10月

●SDGs(持続可能な開発目標)

SDGs(Sustainable Development Goals)は、2015年9月に国連サミットで採択された2030年までに地球規模で解決すべき「持続可能な開発目標」です。全ての国の社会課題を対象とした17の目標と169のターゲットから構成されています。この目標とターゲットによって、包括的で持続可能な社会の構築を目指しています。



CONTENTS

TOP MESSAGE		03
エスペックの価値観		05
サステナビリティに関する考え方		06
ステークホルダー・エンゲージメント		07
中期経営計画「プログレッシブ プラン2021」		08
エスペックの事業		09
財務・非財務データ		11
ESPEC NEWS		13
特 集		
1 「安全・安心、快適な住まい」に向けた研究開発を推進する 長谷工テクニカルセンター 長谷工技術研究所を訪問		15
2 生物学・生命科学の研究を支援する 国立大学法人 九州大学「生物環境利用推進センター」を訪問		17
コーポレートガバナンス		19
社会性パフォーマンス		
お客さまとのかかわり		21
従業員とのかかわり		23
取引先さまとのかかわり		26
株主・投資家さまとのかかわり		27
社会貢献		29
環境パフォーマンス		
環境マネジメント		31
環境に配慮した製品		35
環境に配慮した工程		37
生物多様性保全		38
事業活動のマテリアルバランス		39
実績データ		40
環境会計		41
OUTLINE		42

TOP MESSAGE

ステークホルダーのみなさまへ

当社は、創業当初より科学技術の発展に貢献したいという大きな志を持ちながら「モノづくり」に取り組んでまいりました。現在では「環境創造技術」を核とした高付加価値の製品やサービスを創出することで持続可能な社会の実現に貢献する企業でありたいと考えています。

世界は今、地球温暖化による気候変動、資源不足や食料危機などに直面しており、各企業が解決に向けた取り組みを始めています。このような中、社会を豊かに安全にするための技術革新があらゆる産業分野で起こっています。そこには必ず新しい技術課題が発生しており、当社は「環境創造技術」でその技術課題の解決に貢献していくことで未来に向かって成長し続けようと考えています。

当社は長期ビジョンESPEC Vision 2025を具現化する中期経営計画「プログレッシブプラン2021」において、自動車関連市場およびIoT関連市場を成長分野と位置づけ、既存事業のさらなる拡大と新規事業の創出に取り組んでいます。そして、当社の持続的な成長と質の向上を目指した積極的な投資を行っています。今年5月にはイノベーションと生物多様性保全の推進をコンセプトとした新技術開発棟の建設に着工しました。また、環境試験事業の拡大に向けて主力製品「恒温恒湿室」の生産エリアを増設し、受託試験事業においても試験所の機能拡充を行いました。グローバル化の推進においてはASEAN地域のサービス拡充に向けたベトナム法人の設立など成長し続ける基盤づくりを進めています。

現代のようなVUCA(変動性/不確実性/複雑性/曖昧性)と呼ばれる予測不可能な社会に対応するためには、明確なビジョンを共有し、新しいことに挑戦していく柔軟な考えを持つ人材が必要と考えています。当社の存在意義や社会に提供する価値について理解を深める研修会や将来の幹部候補を育てる制度の実施など人材育成に注力しています。当社はやる気と能力のある女性社員の活躍を積極的に推進しており、その取り組みが評価され大阪府より「男女いきいき優秀賞」を受賞しました。

これからも、当社はさまざまなステークホルダーと積極的に対話を重ね、サステナブルでより良い社会の実現に向け、リーダーシップを発揮してまいります。

代表取締役社長

石田雅昭



- ESPEC 株式会社
ESPEC CORP.
- ESPEC NORTH AMERICA, INC.
- ESPEC EUROPE GmbH
- 株式会社 株式会社
ESPEC JAPAN (PTE) LTD.
- 上海爱斯佩克环境仪器有限公司
SHANGHAI ESPEC ENVIRONMENTAL INSTRUMENT CO., LTD.
- 斯佩克环境仪器有限公司
SPEK ENVIRONMENTAL INSTRUMENT CO., LTD.
- 斯佩克测试科技(上海)有限公司
SPEK TEST TECHNOLOGY (SHANGHAI) CO., LTD.
- 爱斯佩克测试仪器有限公司
ESPEC TEST EQUIPMENT (HONGKONG) LTD.
- 한국에스피 주식회사
ESPEC KOREA CORP.
- ESPEC ENGINEERING (THAILAND) CO., LTD.
- ESPEC ENGINEERING (VIETNAM) CO., LTD.
- ESPEC テクニカルシステム株式会社
ESPEC TEST SYSTEM CORP.
- ESPEC九州株式会社
ESPEC KYUSHU CORP.
- ESPEC ミック株式会社
ESPEC MIC CORP.
- 海外代理店
Distributors

創業当時から脈々と伝わる大切な価値観を
THE ESPEC MIND として体系的に取りまとめ、
あらゆる意思決定や活動の指針として企業活動を行っています。

起点

公器として、より良い価値交換を目指す

企業の存在理由

そもそも企業とは公器であり、人々や社会の期待に応えるために存在するものです。エスペックも同様「より確かな生環境を提供すること」を社会的使命として存在しています。さらに、ステークホルダーとの価値交換をより良いものにしていくことが社会的装置としての価値を高め、人々の幸せ実現の一助となると私たちは考えています。

使命

環境創造技術でより確かな生環境を提供

エスペックが追求すべき永遠のテーマ

エスペックは「環境創造技術」を核とする事業で「より確かな生環境を提供する」ことを使命としています。生環境とは、全ての生き物が生きていくための環境、あるいは目的を持って作られた機器がその機能を十分発揮できる環境のことです。生環境という言葉は私たちが自らつくり出した言葉です。それはエスペックの事業が独創的であるからに他なりません。

スタイル

プログレッシブ

ミッションの実現に向けた企業姿勢

エスペックの企業活動のあるべき姿、それは「プログレッシブ(進取的)」です。かつて先達が「環境試験器」という言葉もない時代にそのニーズを察知し、事業のかなめとしたように、プログレッシブであることは私たちが大切にしてきた企業姿勢であり、次代に受け継ぐ伝統でもあります。プログレッシブとともに、リアルな(誠実な)、オープン(開放的な)、フェア(公正な)といった企業姿勢も大切にしています。

宣言

エスペックが社会に約束すること

良き社会の一員としての誓い

企業活動の範囲が拡大するなかで、順守すべきものや尊重すべきものを明確にしました。それらは「遵法」「文化」「人権」「環境」「啓発」です。例えば「遵法」という考え方において、私たちは法を犯さない範囲であれば何をやってもいいという訳ではありません。法の上に社会規範や良識、人々の考えといったものがあり、エスペックはその領域で活動を行います。また、国や地域が異なれば倫理規範などの解釈に違いがみられることがしばしばあります。その場合はより社会性が高い活動を選択することとしています。「文化」「人権」「環境」「啓発」においても同様に、これらの事柄を積極的に守り、育てる決意を「宣言」というかたちで社会に表明し、実践しています。

エスペックのサステナビリティに関する考え方

— 持続可能な社会に向けた貢献 —

企業理念 THE ESPEC MINDとサステナビリティ

企業理念THE ESPEC MINDには二つの重要な考え方が基本にあります。一つは「企業は公器」であること。企業とは社会の期待や人々の幸せに貢献する「社会的な装置」と定義し、私たちは事業や企業活動を通じて社会に貢献する企業でありたいと考えています。二つ目は、エスペックは「ステークホルダーとの価値交換性の向上を目指す」ということです。これは、私たちと関わり合う顧客や株主、従業員、取引先、地域社会などのステークホルダーのみならず、お互いにとってより良い関係を築いていきたいということです。また、私たちは社会の一員として果たすべき役割を「環境創造技術でより確かな生環境を提供すること」としています。これを実現する製品やサービスの提供により社会の持続可能な発展に貢献したいと考えています。私たちは「遵法」「文化」「人権」「環境」「啓発」を積極的に守る決意を企業理念の中で「宣言」という形で表明し、実践しています。このように、サステナビリティに関する考え方は、私たちの企業理念THE ESPEC MINDの中に脈々と流れています。

私たちはこのような価値観のもと持続可能な社会に貢献することを目指しています。

ESPEC Vision 2025

私たちは創業以来、時代時代において「こうありたい」「こうなりたい」という夢、ビジョン、目標を設定し、それに向かって挑戦し、成功と失敗を重ねながら今日のエスペックを築いてきました。これからの未来、私たちはどのような会社、チームになりたいのか、どのような事業を展開し価値を生み出していくのか。2025年を達成年度に設定した私たちのあるべき姿をESPEC Vision 2025としてまとめました。ESPEC Vision 2025では、将来像に加えて新たにステークホルダーごとにビジョンを設定(P.7参照)しています。社会の公器としての責任を全うするための私たちの覚悟の表れでもあります。ESPEC Vision 2025は私たちをさらなる成長へと導く未来の道標です。ビジョンを全社員に発表し、実現に向け全力で取り組んでいます。

ESPEC Vision 2025 / 将来像

エスペックの姿

- グローバルに〈環境〉をインテグレートするエスペック
- 先端技術の安全・安心に貢献する企業
- クリエイティビティとバイタリティにあふれる成長企業

エスペックの事業

- 世界の先端技術にとって不可欠な存在となっている
- 新ニーズへの一番乗りとなっている
- 世界の市場における強力な販売・サービス体制を持っている

エスペックの文化

- 冒険心にあふれた構成員の活動によって、より「プログレッシブ」な文化が実現している

2025年度 連結業績目標

- 売上高 600億円以上
- 営業利益 60億円以上
- 営業利益率 10%以上

エスペックのステークホルダー・エンゲージメント

— ステークホルダーとの価値交換性の向上に向けて —

企業理念THE ESPEC MINDの基本的な考え方である「会社は社会的装置である」「エスペックはステークホルダーとの価値交換性の向上を目指す」を実践していくために、ステークホルダーとのエンゲージメントを大切にしています。そのため、エスペックが2025年までに果たしたい「約束」をステークホルダーごとに設定しました。私たちは、これをもとに各ステークホルダーとのエンゲージメントをより強化していきます。

私たちは、社長をはじめ役員が参加するラウンドアップ研修会を実施し、社員と一緒にエスペックの未来や目指す姿について考え、討議を行っています。このような研修会を通して私たちは経営層と社員とのコミュニケーションを深め、良質な企業文化の醸成に取り組んでいます。



ビジョンを理解・共有するための研修を実施

ESPEC Vision 2025／ステークホルダーとの約束

エスペックと従業員

- 貢献に応じた明瞭な分配と待遇
- 意欲と能力ある人材への多彩な「成長支援」と「活躍機会の提供」
- 多様なワークスタイルに対応する環境の整備

エスペックと顧客

- どこよりも最適な機能のひと足早い提供
- 常に進化し続けるパートナー

エスペックと株主

- 成長機会の永続的探求
- 現在と将来の的確な発信
- 「説明できる経営」の堅持

エスペックと取引先

- フェアな取引
- 提案・意見の歓迎

エスペックと地域社会

- 地域社会の文化と伝統の尊重
- 能動的かつ良質なコミュニケーション

ESPEC Vision 2025と中期経営計画(StageI～Ⅲ)



中期経営計画

「プログレッシブ プラン2021」 (計画実施期間：2018～2021年度)

私たちは、長期ビジョンESPEC Vision 2025の達成に向けて、2018年度よりStageⅡとなる「プログレッシブ プラン2021」を推進しています。「プログレッシブ プラン2021」では、クルマの電動化や自動運転技術の開発が急速に進む「自動車関連市場」、家電などさまざまなものがインターネットに繋がる「IoT関連市場」をターゲット市場と位置づけ、戦略投資と着実な「質の向上」により、安定的かつ継続的な成長を目指しています。この達成に向け、4分野で構成する中期経営戦略に取り組んでおり、そのひとつである「経営基盤の強化とESGの推進」では、E(環境)S(社会)G(企業統治)に視点をおいた課題に取り組んでいます。

また、SDGsが掲げる17の目標と当社の中期経営計画、第7次環境中期計画との関連性を整理しました。これにより、中期経営計画における経営課題の解決および第7次環境中期計画における環境目標の達成がSDGsの実現につながっていることを確認しました。

中期経営計画「プログレッシブ プラン2021」

基本方針

戦略投資と着実な「質の向上」による安定継続成長

- 成長分野をターゲットとしたグローバル化とカスタム対応力の向上
- 業績変動の緩和と次代の成長のための新分野事業の開発

中期経営目標

2021年度 連結業績目標
売上高：520億円以上
営業利益：52億円以上
営業利益率：10%以上

中期経営戦略

- 装置事業セグメント 事業戦略
- サービス事業セグメント 事業戦略
- グローバル戦略
- 経営基盤の強化とESGの推進

ESGの推進

Environment (環境)

- 地球温暖化防止への貢献(製品・サービスの提供)
- 環境負荷低減
- エコサイト・エコオペレーション
- 汚染防止
- 生物多様性保全

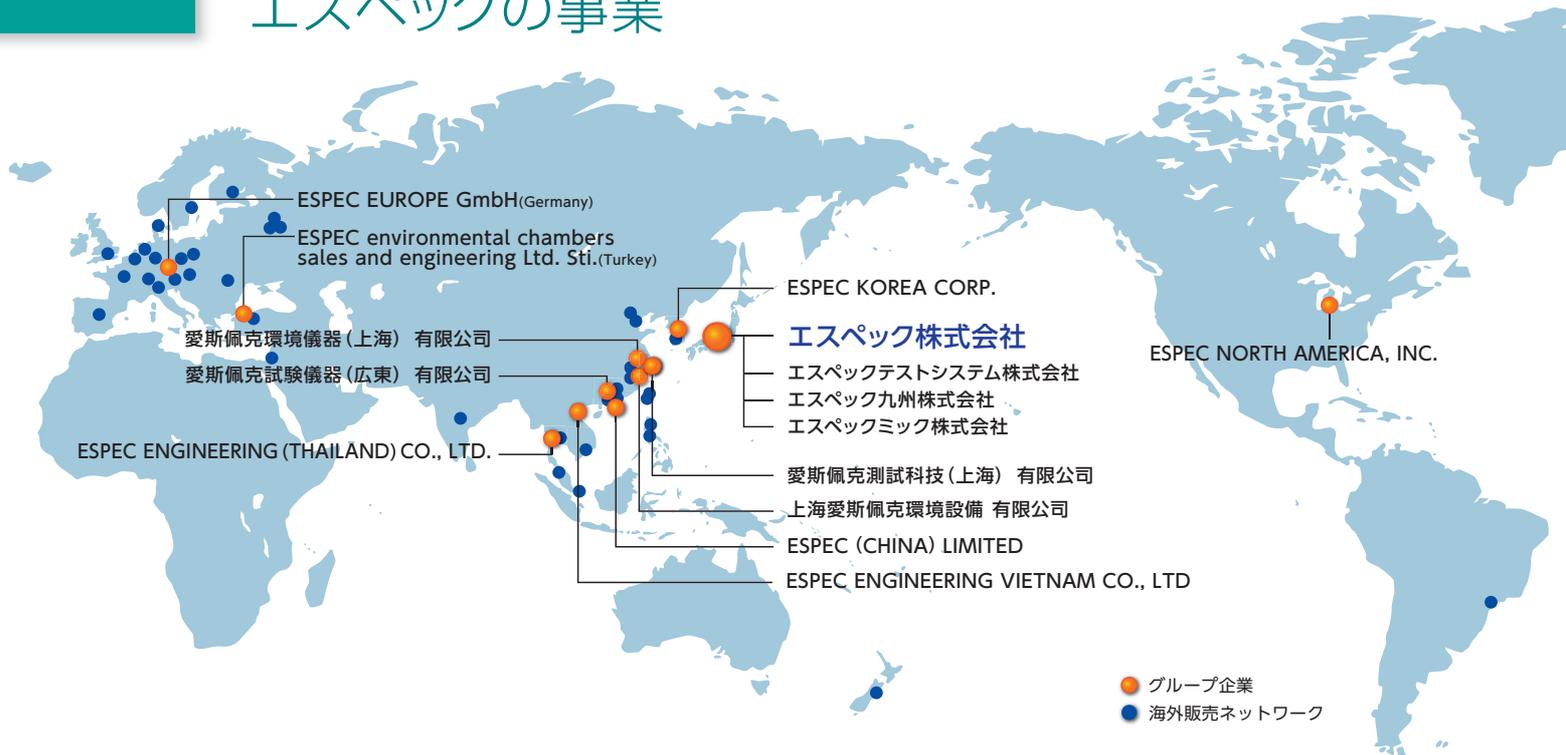
Social (社会)

- 人材育成と成長支援
- ダイバーシティの推進
- 公益信託を通じた社会貢献

Governance (企業統治)

- コーポレートガバナンスコードに基づくさらなる改革
- 中長期の成長に向けてグループ会社のガバナンス強化
- ステークホルダーとのコミュニケーション強化

エスペックの事業



企業には自ら選択したテーマで社会に貢献する責任があります。エスペックは「環境創造技術をかねめとした事業で、より確かな生環境を提供する」ことを使命とし、環境試験器のトップブランドとして半世紀を超えて、先端技術の発展と信頼を支え続けています。私たちの事業領域は広く、電動化や自動運転の開発が急速に進む自動車関連をはじめ、IoT関連、医薬品や食品など多岐にわたります。また、生物多様性保全や食の安定供給を目的とした事業にも取り組んでいます。

グローバルな総合力

エスペックは、環境試験市場で高いシェアを誇り、優れた品質と技術力で世界中のお客さまから高い信頼を得ています。お客さまのニーズをできるだけ深く追求し、それに応えると同時に、お客さまの創造性をさらに高めるサービスの提供を心がけています。私たちは、こうした努力がエスペックを世界から信頼されるブランドに育てるのだと確信しています。

さらに、グローバルに開発・生産体制と販売・サービスネットワークを構築し、世界中のお客さまにクオリティの高い製品やサービスをお届けしています。グローバル企業として国際社会においても、より信頼される企業となるよう取り組んでいきます。

● 国内代理店	46社
● 海外販売ネットワーク	45カ国 42社



本社(大阪市)



ESPEC NORTH AMERICA, INC.



愛斯佩克試験儀器(広東) 有限公司



上海愛斯佩克環境設備 有限公司



ESPEC KOREA CORP.



ESPEC ENGINEERING (THAILAND) CO., LTD.

エスペックの事業とSDGsとの関連

当社はSDGsが採択される以前から事業を通じて社会に貢献することに取り組んでまいりました。今回、私たちの事業や活動がSDGsに関係していることを確認しました。私たちの事業は「先端技術の発展」「生物多様性保全」「食の安定供給」に貢献しており、これらはSDGsの実現に結びついています。このため、私たちはより事業を拡大し、グローバルな領域で成長し続けることができると考えています。

環境創造技術を駆使した製品・サービスの提供による先端技術の発展への貢献



持続可能で豊かな社会を目指し、世界中でさまざまな技術革新が進んでいます。こうした先端技術開発に不可欠な信頼性や安全性を確保するための試験装置とサービスの提供を行っています。

装置事業

● 環境試験器

温度や湿度などの環境因子を人工的に再現し、製品の信頼性を確保する環境試験器を豊富な製品群で提供しています。

● エナジーデバイス装置

エコカーに搭載される二次電池や燃料電池の評価装置を提供しています。



恒温(恒湿)器 プラチナスシリーズ



自動車一台入る実車試験装置

● 半導体関連装置

半導体の検査用バーンイン装置や計測評価システムなどを提供しています。

● 医薬用機器

医薬品や食品などの品質管理に使用される安定性試験装置を提供しています。



二次電池評価用
アドバンストバッテリーテスター



半導体検査用
バーンインチャンバー

サービス事業

● アフターサービス

お客さまが安心して装置をお使いいただけるよう製品のメンテナンスや予防保全を行っています。

● 受託試験サービス

環境試験で培った技術と試験ノウハウで受託試験サービスを行っています。また「バッテリー安全認証センター」では、国連規則に定められた車載用二次電池の安全性試験から認証申請までをワンストップで提供しています。



受託試験所を国内4カ所
中国2カ所、タイ1カ所に設置



バッテリー安全認証センター
(宇都宮テクノコンプレックス内)

生物多様性保全への貢献



環境保全事業

その土地の在来種による「森づくり」や自然の河川を取り戻す「水辺づくり」など、自然環境を復元する環境保全事業を行っています。地球温暖化の防止や生物多様性保全に貢献しています。



仙台市輪王寺参道の
復元された森



東京都 隅田川テラスにおける
水辺づくり

地球温暖化や異常気象に対応した食の安定供給への貢献



植物育成装置事業

植物が育つ環境を人工的に再現し、異常気象でも計画的に野菜を生産できる植物工場を提供しています。また、乾燥に強い植物の研究に使用する装置の提供など、食の安定供給に貢献しています。



海洋深層水を利用した植物工場
ミネラル豊富な野菜を生産・販売

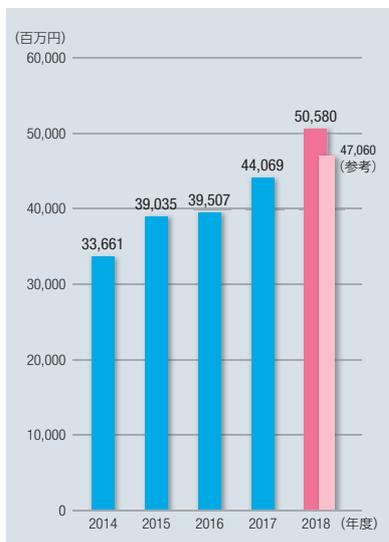


乾燥地植物気候変動応答実験設備
(鳥取大学 乾燥地研究センター)

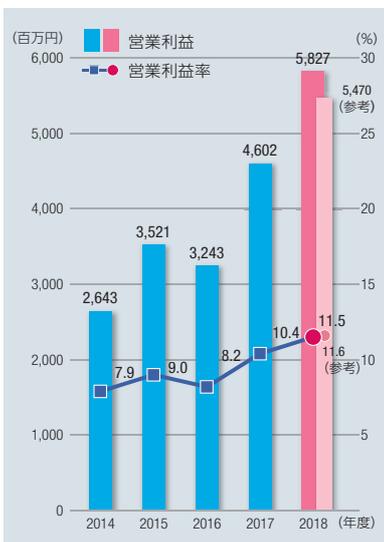
財務・非財務データ

(連結)

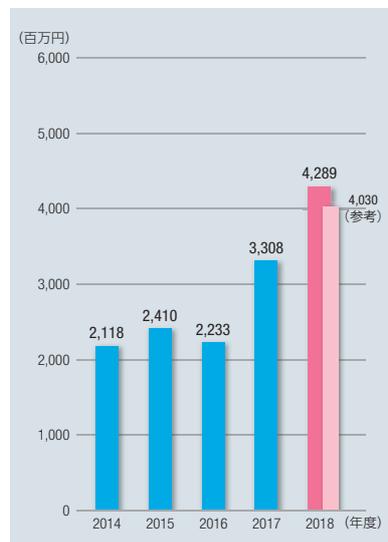
売上高



営業利益・営業利益率



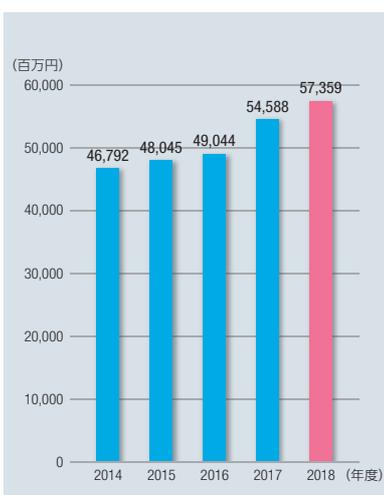
親会社株主に帰属する
当期純利益



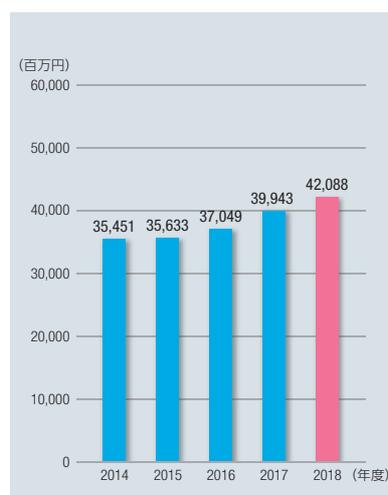
海外売上高・海外売上高比率



総資産



純資産



自己資本比率



総資産経常利益率 (ROA)



自己資本利益率 (ROE)



※ 2018年度は海外連結子会社の決算期が15カ月間となる変則決算
 ※ 2018年度(参考)は海外連結子会社の決算期が12カ月間であった場合の参考値
 ※ 2018年度の期首より、2018年2月16日公表の税効果会計基準の改正(企業会計基準第28号)を適用

(2018年度)

環境的側面



社会的側面



ベトナムに新会社を設立 ASEAN地域のテクニカルサポート体制を強化

2018年11月

ベトナムのハノイに製品メンテナンスや予防保全などのテクニカルサポートを行う新会社「ESPEC ENGINEERING VIETNAM CO., LTD.」を設立しました。近年ベトナムでは、エレクトロニクスや自動車関連企業の投資が活発化しています。当社は、中期経営計画「プログレッシブ プラン2021」においてASEANを重点拡大地域と位置づけています。ベトナムでの新会社設立により、テクニカルサポート体制を強化し、ASEAN地域のお客さまにより良いサービスを提供してまいります。



ESPEC ENGINEERING VIETNAM CO., LTD.

トレーニングスタジオに 低酸素発生装置を納入

2019年3月

兵庫県芦屋市にオープンした高地トレーニングスタジオ「30peak 芦屋」に低酸素発生装置を納入しました。低酸素発生装置は、当社独自の「環境創造技術」により、高地の低酸素環境を再現する装置です。低酸素環境で運動することで心肺機能や運動能力の向上を図る「高地トレーニング」を行うことができます。30peak 芦屋では、標高2,500m相当の低酸素環境を再現。短時間でより効果的なトレーニングが可能で、利用者の健康増進などに役立てられています。



高地トレーニングスタジオ「30peak 芦屋」

豊田試験所リニューアルオープン 国内初 ドイツ自動車業界規格「LV124」全試験項目に対応

2019年9月

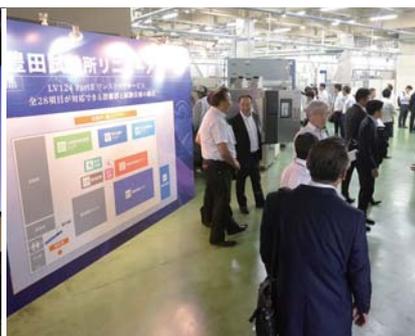
環境試験の受託試験サービスを提供する豊田試験所（愛知県豊田市）が、新たな試験設備を導入してリニューアルオープンしました。2019年9月に開所式を開催し、車載機器メーカーを中心とするお客さまや報道関係者など約100名にご参加いただきました。

開所式では、試験所見学として、試験設備を実際にご覧いただきながら各試験の内容や特徴、当社の試験技術についてご紹介しました。

近年、日本の車載機器メーカーではグローバル化に伴って国際規格をはじめとする各種規格への対応が必要となるなど、試験が多様化しています。今回リニューアルした豊田試験所は、国内で初めてドイツ自動車業界規格「LV124 PartII」の全試験項目に対応できるようになりました。また、国際規格やメーカー各社の独自規格など、お客さまの多岐にわたる試験を最新の試験設備と専門知識・技術でサポートします。



開所式



試験所見学



豊田試験所

新技術開発棟の建設に着工 技術開発力強化と生物多様性保全を推進

2019年5月

神戸R&Dセンター(兵庫県神戸市北区)の敷地内において新技術開発棟の建設に着工しました。産学官連携など、オープンイノベーションの促進により技術開発力を強化するとともに、生物多様性保全の推進を図り、持続的な成長を目指します。屋上には、六甲北部の在来種による草地を育成し、既存のエスプレックの森(在来苗木を植樹し育てた森)やビオトープなどとの調和を図ります。新技術開発棟は、2020年5月より稼働する予定です。



新技術開発棟 全景(イメージ図)

サステナビリティレポート2018 環境コミュニケーション大賞「優良賞」を受賞

2019年2月

サステナビリティレポート2018が環境省、一般財団法人地球・人間環境フォーラム主催「第22回環境コミュニケーション大賞」の環境報告書部門「優良賞」を受賞しました。



日本経済新聞社 2019年版「環境経営度調査」で85位

2019年5月

日本経済新聞社の2019年版「環境経営度調査」製造業ランキングにおいて、85位に評価されました。「環境経営度調査」は、日本経済新聞社が1997年から年1回実施している、企業の環境対策と経営を両立させる取り組みを評価する調査です。

生物多様性ワーキンググループ 生物多様性アクション大賞「優秀賞」を受賞

2018年12月

私たちは「電機・電子4団体*環境戦略連絡会 生物多様性ワーキンググループ」に参画し、業界団体で連携して生物多様性保全活動を推進しています。このワーキンググループの取り組み「企業が取り組むはじめての生物多様性-Let's Try Biodiversity!」が、生物多様性アクション大賞*2018 つたえよう部門「優秀賞」を受賞しました。生物多様性保全に初めて取り組む事業者に向けた手引書の制作に加え、COP14(気候変動枠組条約締約国会議)のサイドイベントで事例発表するなど、生物多様性条約やSDGsに積極的に参画している点が評価されました。



* 電機・電子4団体：一般社団法人日本電機工業会(JEMA)、一般社団法人電子情報技術産業協会(JEITA)、一般社団法人情報通信ネットワーク産業協会(CIAJ)、一般社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会(JBMIA)

* 生物多様性アクション大賞：国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)主催

「輝く女性の活躍を加速する 男性リーダーの会」行動宣言に賛同

2019年1月

代表取締役社長が、内閣府支援の「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言に賛同しました。ダイバーシティの推進や社員が持てる力を発揮できる環境づくりに取り組みます。



大阪府男女いきいき事業者表彰 「男女いきいき優秀賞」を受賞

2019年8月

2019年1月に大阪府の「男女いきいきプラス」認証を取得し、同年8月に第2回大阪府男女いきいき事業者表彰「男女いきいき優秀賞」を受賞しました。女性管理職比率の増加や研修実施などの実績が評価されました。



「安全・安心、快適な住まい」に向けた研究開発を推進する 長谷工テクニカルセンター 長谷工技術研究所を訪問

2018年8月、創業80周年記念事業の一環としてオープンした長谷工テクニカルセンターは、長谷工技術研究所や長谷工マンションミュージアムなどが集約した施設です。長谷工技術研究所では最大3tもの建築材料の試験が可能なエスペックの熱環境試験室を使用されています。お客さま目線で安全や安心にこだわる第3・第4研究開発室のみなさんにお話を伺いました。



現物にこだわった実験で住まう方々の安全や住み心地を追求 未来のマンションを見据えた研究を推進

▶ **長谷工テクニカルセンターの中核施設である長谷工技術研究所の役割を教えてください。**

当社は従来から旧越谷技術研究所において「安全・安心、快適な住まい」に向けた研究開発に注力してきましたが、近年高まる環境に関する要望や法律への対応、さらに未来を見据えた研究開発を強化するため、80周年記念事業の一環として設立しました。長谷工技術研究所では、試験設備や能力を増強し、マンションに関する要素技術の研究や最新の技術開発に取り組んでいます。



取材にご協力いただいた長谷工技術研究所のみなさん

左から 第4研究開発室 池本和太様、第3研究開発室長 岡崎充隆様、第4研究開発室担当部長 山本正顕様、第3研究開発室専門役 木村洋様

▶ **技術研究所の多目的実験棟と住宅実験棟ではそれぞれどのような実験を行っているのですか？**

多目的実験棟ではマンションを構成するさまざまな部材の品質検証を行っています。4階建てのマンションを再現した住宅実験棟では施工後の検証を行っています。この二段階の検証で、効率良く品質や性能を確認することができます。部材メーカーでも品質管理はされていますが、マンションに住む人の安全や住み心地を守るため自分たちでもしっかりと検証を行っています。

▶ **コンクリート壁やサッシなど現物を使った実験を重視されており、安全や品質に対する意識の高さを感じます。**

図面やデータ上だけでなく実験によって得られた結果を重視しています。建築材料はコンクリートで作られているものが多く非常に重いので、以前は切り取ったミニチュアで試験をしていました。また、サッシや設備機器は現物を小さくするのは難しく、実際のサイズで試験したいという思いがありました。多目的実験棟に設置したエスペックの熱環境試験室は最大3tもの建築材料の試験に対応しており、重量やサイズも現物そのままでも実験できるようになりました。

▶ エスペックの熱環境試験室は、室内と屋外の環境を再現できる2つの試験室で構成されていますが、どのような研究をされているのですか？

例えば、日本の冬の環境を再現してマンションの断熱性能や防露性能を調べます。マンションは気密性が高く結露しやすい傾向があります。室内と屋外環境を再現した2つの試験室に窓やサッシ、カーテンがついた壁を挟み、どれくらいの温度や湿度で結露するかを確認しています。

▶ 熱環境試験室には日射や降雨機能も付いており、海外の気象条件など、より厳しい環境を再現できますね。

当社は現在海外展開を進めています。そのため、東南アジアなど亜熱帯の気象環境を再現するために温度は

50℃、湿度は95%rhまでと高めに設定できるようにし、日射や降雨機能も付けました。これにより厳しい環境ストレスを建築材に与えて、塗装の色あせやシール材のひび割れ、タイル剥がれなどが起きないかを確認しています。



第4研究開発室 担当部長
山本 正顕 様



熱環境試験室 (エスペック製)

内寸法：幅4.5m×高さ4m×奥行4.1m (2室共通)



試験室は可動式のため建材の入れ替えが容易 (左)
日射・降雨装置を装備した試験室内 (右)

▶ 将来のマンションへの展望をお聞かせください。

“住む人の健康まで考えた住宅とは何か”というような、もう一歩先を見据えたものを生み出したいと考えています。私たち技術研究所は、設計部門や建設部門と密につながっていて、新商品開発やお客さまからの要望・意見といった情報が日々入ってきます。そうした情報からもお客さま目線での利便性や快適性を常に考えながら新しいものを創り出していきたいと思っています。



第3研究開発室長 博士 (工学)
岡崎 充隆 様

レンジフードから流れる調理のにおいを研究

家具や建具がそのまま入る内容積30㎡のエスペックの大型VOC放散試験チャンバー※。現在研究されているのはレンジフードから屋外に流れる調理のにおい。カレーを温め、そのにおいを特殊な袋に入れて当社のチャンバーで温度28℃湿度50%rhに保ち、においを測定されています。

※VOC放散試験チャンバー (空気環境実験室)
揮発性有機化合物 (VOC) などの放散測定を行う装置



第3研究開発室
専門役 博士 (工学) 木村 洋 様

株式会社 長谷工コーポレーション

創業：1937年 (昭和12年)

本社住所：東京都港区芝二丁目32番1号

連結売上高：8,910億 (2018年度)

連結従業員数：6,974名 (2018年度末)

事業内容：マンション建設を中心とする

建設関連事業や、管理やリフォーム、流通仲介、賃貸などのサービス関連事業



生物学・生命科学の研究を支援する 国立大学法人九州大学「生物環境利用推進センター」を訪問

2018年に伊都キャンパスへ移転した国立大学法人九州大学「生物環境利用推進センター」を訪問しました。環境調節実験室を多数保有される同センターにおいて、当社グループ会社のエスペックミックは自然光型と人工光型の環境調節実験室を合計20室納入しました。最先端の生物学・生命科学の研究にご使用いただいています。



最新の環境調節実験室を保有し、最先端の生物学・生命科学の研究を推進

▶ **生物環境利用推進センターの目的を教えてください。**

生物環境利用推進センターは、生物学・生命科学に関する研究の支援を目的に設置した学内共同教育研究施設です。環境条件を厳密に制御できる環境調節実験室を九州大学内の研究者に提供しています。九州大学ではこれらの施設を当センターに集約することで研究者が研究に専念できる環境づくりを行っています。

▶ **生物学・生命科学に関する研究において環境条件を厳密に制御する理由を教えてください。**

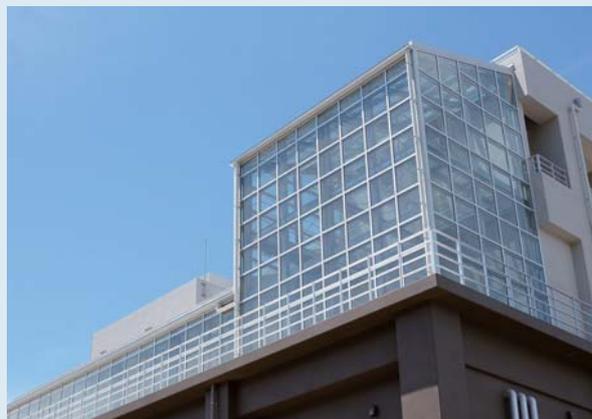
植物育成に関する研究において、環境条件の違いによる生育状態を比較する必要があるためです。装置の制御精度が低いと正確なデータを得ることができません。また、年中一定の環境を再現でき、オフシーズンなく植物育成を繰り返し行え、研究を迅速に進めることができます。さらに、熱帯や乾燥地域など世界各地に生息する植物の育成調査を現地に出向かず行えます。



生物環境利用推進センター
センター長
農学研究院
植物栄養学分野 教授
農学博士
松岡 健 様

▶ **当社の環境調節実験室は植物育成に必要な環境条件を高精度で制御することを得意としています。**

自然光ガラス室型環境調節実験室は当センターに17室あります。室内の高さが9mの高天井タイプ2室と5mのものが15室あります。また、高輝度人工光型が4室、持ち込み光源利用型が10室あります。これらの環境調節実験室は植物育成に必要な温度、湿度、CO₂濃度を制御できますが、エスペックの装置は温湿度制御性能が高いため安心して使用できます。



自然光ガラス室型 環境調節実験室 高天井タイプ

内寸法：幅3.6m、高さ9m、奥行4.4m
温度制御範囲：+15～+30℃、温度制御精度：±1℃
湿度条件：70±5%rh、CO₂濃度：大気濃度～2,000ppm

▶ **環境調節実験室への入出時のセキュリティも重視されていますね。**

遺伝子組換え実験や外国産の特定の植物を用いた実験は「カルタヘナ法」「植物防疫法」「外来生物法」など関連する法規制に対応した施設でなければ実施できません。これらの実験では、花粉や種子、輸入種子とともに持ち込まれた病原菌が外部に流出すると大きな問題となるため、環境調節実験室内の圧力を外部より低い状態に保ち、かつ排気側にHEPAフィルターを設置した構造の下に、環境条件を厳密に制御しています。またこれらの実験では、実験区画内に従事者以外の人員が立ち入らないよう管理することが求められているため、登録ユーザーしか入室できないよう、セキュリティを厳重にしています。

▶ **高天井タイプの自然光ガラス室型環境調節実験室はどのような研究に用いられますか？**

高天井タイプのガラス室は、主に樹木の研究で使用します。例えば乾燥地域でも良く育つ樹木の研究では、生育が早いポプラの木が使用されます。ポプラは1年で4～5m伸びるため、室内高さ5mの温室では約1年で天井に到達してしまいます。室内高さ9mのガラス室を用いることで約2～3年継続して研究が行えます。



自然光ガラス室型
環境調節実験室内



人工光型 環境調節実験室

高輝度人工光源（メタルハライドランプ）を搭載。当社の技術力により太陽光に近い光環境を再現し、植物育成に必要な環境条件を高精度に制御

▶ **当社製品は地球温暖化対策の研究にも使用されますか？**

地球温暖化対策に関連する研究として、過酷な環境でも良く育つイネの新品種の研究・開発に使用されています。今後の地球温暖化に係る研究テーマも想定して、環境調節実験室におけるCO₂濃度も制御できるようにしています。

▶ **漢方薬や薬草など新品種開発も行われているんですね。**

漢方薬向けの植物を国内で効率良く育成するため、高温環境でも育つ品種の開発や薬草の品種改良に実験室を使用しています。また、植物の基本的な特性を調査する基礎研究にも取り組んでいます。



漢方薬に配合される植物や薬草の新品種を開発

▶ **当社製品およびサービスについてのご感想、ご要望をお聞かせください。**

今回の移転に伴い、エスペックミックさんにはきめ細やかな対応を行っていただき感謝しています。環境条件を厳密に制御する技術力をさらに高め、これからも生物学・生命科学の発展に貢献してください。



生物環境利用推進センター
副センター長
コーディネーション部門 教授
博士（農学）
吉田 敏 様

生物多様性保全サービスを行うエスペックミックでは、その土地に由来する在来種を利用して九州大学伊都キャンパス内の法面を緑化しました。



法学研究院や経済学研究院の校舎 イースト2号館前の法面

国立大学法人 九州大学 生物環境利用推進センター

住 所：福岡市西区元岡744

沿 革：1966年 生物環境調節センターとして設立
2011年 生物環境利用推進センターに改編
2018年 伊都キャンパスに移転



九州大学
KYUSHU UNIVERSITY

コーポレートガバナンス

コーポレートガバナンス

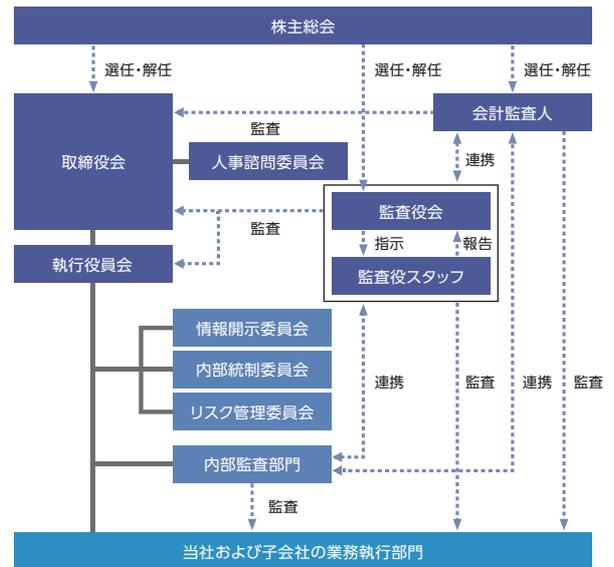
基本的な考え方

当社は「企業は公器」の考えのもと、ステークホルダーのみなさまとより良い関係を築き、より高い価値を提供することで「価値交換性の高い企業」を目指しています。私たちはこの考えを起点として、コーポレートガバナンスの充実に継続的に取り組むことで、ステークホルダーのみなさまへの社会的責任を果たすとともに、持続的な成長と企業価値の向上を実現していきます。

コーポレートガバナンス体制

エスペックは監査役会設置会社であり、監査役は取締役会や重要会議体に出席し、適正な監査を行っています。2019年6月末現在、取締役は社外取締役2名を含む8名、監査役は社外監査役2名を含む4名で構成しています。取締役の任期は1年とし、経営責任の明確化を図っています。また、社外取締役2名および社外監査役2名を独立役員として東京証券取引所に届け出ています。

■コーポレートガバナンス体制



(前列左から)

取締役
上席執行役員
末久 和広
社外取締役
小杉 俊哉
代表取締役社長
石田 雅昭
社外取締役
長野 寛之
常務取締役
島田 種雄
取締役
上席執行役員
荒田 知

(後列左から)

取締役
執行役員
淵田 健二
取締役
執行役員
浜野 寿之
社外監査役
山本 哲男
社外監査役
堤 昌彦
常勤監査役
今石 義人
常勤監査役
石井 邦和

(執行役員)

上席執行役員
村上 精一
上席執行役員
大島 敬二
執行役員
西谷 淳子
執行役員
渡部 克彦

コンプライアンス

基本的な考え方

私たちは、遵法だけでなく、社会規範を尊重し、社会の常識や道徳観・倫理観に反しない企業活動を心がけています。また活動を行う国や地域によって法律上の格差がある場合には、より社会性の高い内容を定めた法律の適用を自らに課すこととしています。こうした考え方は、THE ESPEC MINDの「宣言」や「経営理念」などに明記されています。

「エスぺック行動憲章・行動規範」の浸透・周知徹底

「エスぺック行動憲章・行動規範」の社内への浸透・周知徹底を図るため、ホームページに掲載し、社内外に公表しています。また、定期的に研修を行うとともに常時携帯できる小冊子を配布しています。

コンプライアンス通報窓口の設置

「コンプライアンス通報規定」を制定し、社員はもとより、お客さまや取引先さまなど社外の方からも広く通報を受け付けるコンプライアンス通報窓口を社内外に設置しています。通報を行ったことを理由とする通報者への不利益な取り扱いは一切行いません。

これにより、不正行為などの未然防止および早期発見・解決を図り、コンプライアンス体制のさらなる強化に努めています。

インサイダー取引に関する教育

「内部者取引（インサイダー取引）管理規定」を制定し、違法なインサイダー取引の未然防止に努めています。社員教育については、東京証券取引所作成の教育用資料を用い、インサイダー取引に関する基本的な知識の習得を図るとともに自社の関連規定の再確認を行っています。2018年度は、新入社員への教育を実施しました。

リスクマネジメント

リスク管理体制

リスク管理委員会では、所管部門や検討部会で識別・評価された全社的なリスクの審議・承認を行っています。個別リスクについては、対応方法を「リスク管理規定」「危機対応規定」などに定めるほか、必要に応じて取締役会や関連会議体で評価・検討し、所管部門で適切・迅速に対応します。

情報管理体制

情報セキュリティの確保と情報の有効活用を目的に、情報管理規定として「情報セキュリティ基本方針」「情報セキュリティ管理規定」「個人情報保護規定」「特定個人情報管理規定」を制定し、管理の徹底を図っています。

内部統制システムに関する基本的な考え方

基本方針として、意思決定および業務執行が、法令・定款・社内規定を遵守し適正に行われるために必要な体制・制度を整備し、社会やステークホルダーに信頼される会社であり続けることと定めています。なお、2019年度は内部統制システム整備の基本方針を改定し、新たに監査役の職務の補助を行う監査役スタッフを配置しました。

反社会的勢力排除に向けた取り組み

反社会的勢力排除に向けた基本方針として、社会の秩序や安全の維持に脅威を与え、健全な経済活動を阻害する反社会的勢力や団体には毅然とした態度で臨み、一切の関わりを持たず、不当な要求を受けた場合も金銭等による妥協をしないことを定めています。

地震対策

大規模な地震の発生に備え、事業の継続と社員の安全を確保するため「危機対応規定」「地震対応手続」を制定し、緊急時の対応を社員に周知しています。全ての国内事業所に災害備蓄品を配備するとともに、定期的に防災訓練を行っています。2018年度は、社員の緊急連絡網を整備するとともに、巨大地震発生時の安否確認訓練を全社員で一斉に実施しました。

お客さまとのかかわり

製品・サービスの品質保証

品質方針

私たちは、お客さまが品質保証活動で使用される環境試験器を提供しており、エスペック製品のクオリティがそのままお客さまの製品のクオリティに直結していること、また、その重責を担っていることに、私たちの存在意義があると考えています。私たちは「お客さまへ安全、快適、確実に使命を果たす、より確かな製品とサービスの提供を行う」を基本理念として掲げ、グローバルカスタマーの期待に応える高品質製品の実現に向けて取り組んでいます。

品質保証体制

当社では、国内外においてEQA (ESPEC Quality Assurance) と呼ばれる独自の品質保証体制を確立し、活動を行っています。また、1993年に国内他社に先駆けて品質マネジメントの国際規格「ISO9001」の審査・登録を行いました。その後2015年のISO改正についても移行を完了して認証継続するとともに、品質保証体制の継続的改善を実施しています。2018年度は「品質マネジメントシステムの着実な遂行により、製品と対応の質を向上させ市場不良を低減する」を基本方針に掲げ、各部門の連携を密にした品質保証活動により、製品とサービスの品質向上に取り組みました。

QMC活動

エスペックでは、生産現場を中心としたQC活動を、日常業務の中から顧客満足の向上と付加価値創造の実現を目指す全社員参加型の「小集団活動」へと転換し、QMC (Quality Management Circle) 活動として実施しています。2018年度は、97サークルがさまざまなテーマで改善活動に取り組み、品質改善やコスト削減、業務効率の向上など大変高い成果をあげました。

お客さま満足の向上に向けて

予防保全とメンテナンス

お客さまに安心して製品をご使用いただくため、全国15のサービス拠点で最適な予防保全と24時間受付サービスなどによるオンコールサービスを行っています。さらに、エスペックがネットワークを介して装置の異常を検知し、早期に復旧をサポートする「エスペックオンラインサポート」も実施しています。

ITを活用した新たなアフターサービスの提供

2018年度、サービスマンの電子工程管理システムを新たに導入しました。これにより、万一の緊急事態にも、近隣地区からサービスマンが応援に駆け付け、素早く訪問ができる体制を整備しました。また、2019年6月より、スマートグラスで遠隔地にある装置の状況をリアルタイムに確認しながら装置の作業支援を行い、早期復旧にお役立ていただけるサービスを開始しました。



スマートグラスで遠隔地の装置状況を確認しながら作業支援を実施

お客さまの「面倒くさい」を解消する装置管理サポート

2019年8月、お客さま先の作業内容を管理する新たなサポートシステムを開始しました。これにより、お客さまは当社に問い合わせることなく、いつでもスマートフォンなどから装置のメンテナンス履歴を確認できます。今後もお客さまの面倒事を解消し、お役立ていただける先進的なサービスの開発に取り組んでまいります。

カスタマーサポートデスク

カスタマーサポートデスクでは、製品購入前から廃棄に至る全てのシーンにおいて、ワンストップで問題解決できる体制を整え、お客さまのさまざまなお問い合わせにダイレクトにお応えしています。2018年度は約11,000件のお問い合わせに対応しました。また、お客さまへの対応品質の向上を図るため、適切な電話対応や製品知識に関する社内教育を定期的に行っています。

ネットワークを利用した集中管理システムの提供

ネットワークを利用して複数の装置の稼働状況をモニターできる集中管理システムを提供しています。試験装置の運転状況や結果確認のための見回りが不要となるなど、より効率的な試験を行うことができます。

業界初 製品の「5年保証」の実施

主要5製品を対象に製品の「5年保証」を実施しています。製品を設置してから5年間、無償で修理対応を行います。高品質な製品と万全のサービス網を持つエスペックならではのサービスです。

豊田試験所をリニューアル

各種規格対応などお客さまの試験を幅広くサポート

2019年9月、受託試験サービスを提供する豊田試験所をリニューアルしました。車載機器に関する国際規格や業界規格、メーカー各社の独自規格などお客さまの多岐にわたる試験を幅広くサポートします。

※ P.13のESPEC NEWSもご覧ください。

ベトナムに新会社を設立

ASEAN地域のお客さまへのサポートを強化

2018年11月、ベトナムのハノイに製品メンテナンスや予防保全などのテクニカルサポートを行う新会社 ESPEC ENGINEERING VIETNAM CO., LTD. を設立しました。サポート体制を一層強化することで、ASEAN地域のお客さまのご期待にお応えしてまいります。

※ P.13のESPEC NEWSもご覧ください。

エスペック信頼性セミナー2018の開催

信頼性試験における有益な情報をお客さまに提供する活動として、信頼性セミナーを開催しています。2018年度は176社247名のお客さまに参加いただきました。特別講演では、横浜国立大学 リスク共生社会創造センター 准教授の澁谷様よりHALT (Highly Accelerated Limit Test) に関する設計評価手法とガイドラインについてご講義いただきました。また、HALTの試験事例や試験規格の最新動向もご紹介し、ご好評をいただきました。

技術者向け情報サイト「Test Navi」

技術者のための信頼性技術の専門情報サイト「Test Navi」を開設しています。環境試験のノウハウや信頼性試験の基礎から最新の試験動向まで、お客さまに役立つ情報をタイムリーにお届けしています。

2019年3月末現在における会員登録者数は18,017名となりました。

第10回国際二次電池展に出展(東京ビッグサイト)

2019年2月、二次電池・蓄電池の製造・開発に関する世界最大の展示会「第10回国際二次電池展」に出展しました。車載用二次電池向け充放電試験専用チャンバーや「バッテリー安全認証センター」についてご紹介しました。中国企業をはじめ、自動車分野や電池分野のお客さまなど、大変多くの方々にご来場いただきました。

エレクトロニカ2018に出展(ドイツ・ミュンヘン)

2018年11月に世界最大規模の電子部品専門の展示会「エレクトロニカ2018」にドイツの代理店と共同出展しました。国際標準規格IECやドイツ自動車業界規格LV124に適合した新製品ハイパワー恒温(恒湿)器急速温度変化タイプや、試料への配線がしやすい冷熱衝撃装置など、欧州市場向け製品を中心に展示しました。車載部品メーカーをはじめ、EU圏内、インド、中国、台湾など世界各国より多数ご来場いただきました。



エレクトロニカ2018(ドイツ・ミュンヘン)

従業員とのかかわり

人事制度・教育

人事方針

会社の盛衰は「人」で決まります。会社にとって「人」が中心であり「人」重視の経営こそが会社発展の原動力です。「社員が主役の会社でありたい」というのが基本的な考え方です。

また、高いモチベーションと品格を兼ね備え、チャレンジ精神に富む良質な人材の開発・育成に取り組むことで「社員能力・活力の最大化」を目指していきます。

コミットメントセッション(目標管理面談)の実施

全社員を対象とした目標管理面談「コミットメントセッション」を定期的の実施しています。社員一人ひとりの目標設定や業務上の課題、今後のキャリアビジョンなどについて、本人と上司が話し合うことで、部門におけるベクトル合わせとコミュニケーションの円滑化を目指しています。

コース選択制度(勤務地限定選択制度)

家庭の事情や価値観・労働観により異動を限定的にすることを望む社員に対し、勤務地限定の選択肢を付与する制度です。2019年3月末現在におけるコース選択状況は「転勤あり(海外含む)」が82%「勤務地域限定」が18%となりました。

社内公募制度

特定の事業やプロジェクトなどの要員を社内で募り、社員が自由に応募できる制度です。社員のチャレンジ精神を育成・尊重するとともに、人材の発掘・流動化による組織全体の活性化を目的としています。社員は事務局である人事部門に直接応募し、応募情報は秘匿されます。

社員表彰の実施

1991年より毎年、特許・実用新案の取得や行政・加入団体からの表彰など、精励・功労の著しい社員を他の模範としてたたえる社員表彰を行っています。

自己啓発教育支援

自己啓発教育講座、援助金支給制度(外国語学習支援、通信教育、推奨資格)など、社員の「伸ばしたい能力」に合わせた教育支援を行っています。

2018年度は、自己啓発教育講座を新たに4講座開講するなどさらなる充実を図り、418名が受講しました。通信教育106名・推奨資格91名・外国語学習35名が援助金支給制度を利用しました。また、グローバルに活躍する経営幹部の育成を目的とした「エグゼクティブ育成制度」を新設しました。MBA(経営学修士)や大学卒業資格の取得、語学力など、経営幹部として求められる能力や見識を備えるための支援を行っています。



自己啓発教育講座

グローバル・トレーニー・プログラム(海外研修制度)

国際的に活躍できる中核的人材を育成するため、グローバル・トレーニー・プログラムを設けています。この制度は、社員を海外グループ会社に一定期間派遣し、現地での実務体験を通してグローバルな考え方や幅広い見識を身に付けるものです。2018年度はタイ2名、中国2名、ドイツ1名を派遣しました。



現地研修 (ESPEC ENGINEERING (THAILAND) CO., LTD.)

ダイバーシティの推進

女性の活躍推進

● 女性社員の育成

意欲や能力のある女性が働きやすく活躍できる組織づくりに力を入れています。2013年度より女性リーダー育成研修を実施し、これまでに23名が受講しています。2017年度には若手女性社員を対象としたキャリアデザイン研修、2016年度と2018年度には管理職を対象とした女性活躍推進セミナーを実施しました。2019年4月1日現在の女性役員比率は5.9%（1名）、女性管理職比率は4.5%（4名）です。2019年1月、代表取締役社長が内閣府支援の「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言に賛同しました。



女性社員向けキャリアデザイン研修

行動宣言

輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会

● 出産後も働きやすい職場環境づくり

正社員だけでなく契約社員やパートタイマーにも育児休業や短時間勤務制度の活用を推進しており、短時間勤務は子供が小学3年生を修了するまで利用可能です。2018年度は6名が育児休業を取得し、7名が短時間勤務を利用開始しました。育児休業取得率は女性100%、男性6%でした。また、2019年8月より在宅勤務制度を導入するなど、出産後も働きやすい職場環境づくりに取り組んでいます。

● 社外からの評価

2019年9月、大阪府男女いきいき事業者表彰において「男女いきいき優秀賞」を受賞しました。



子育てサポート
企業「くるみん」



女性活躍推進
企業「えるぼし」
(3段階目)



大阪府 男女
いきいきプラス
認証



大阪市女性活躍
リーディング
カンパニー認証

※ P.14のESPEC NEWSもご覧ください。

定年退職者の再雇用

定年退職者の再雇用制度を導入しています。希望者全員を65歳まで雇用するようしており、2018年度は定年退職者31名のうち、再雇用者は29名となりました。また、55歳を迎える社員を対象に再雇用を見据えた今後のキャリアについて考える機会として、キャリアプラン研修を実施しています。

障がい者の雇用

障がいのある方が14名勤務しています（2019年3月末現在）。障がい者を、その能力や適性に応じてできるだけ多く雇用できるように、今後も継続して職場環境の改善や職務の見直しなどに取り組みます。

快適な職場環境づくり

柔軟な働き方に向けて

単月の時間外労働時間が80時間を超える社員に対して医師による面接指導を義務付けています。また、家庭と仕事のバランスを考慮し、有給休暇計画取得制度やフレックスタイム制度を導入しているほか、一斉退社日（ノー残業デー）の設定、事業所の一斉消灯を実施しています。2018年度には、コアタイムのないスーパーフレックスタイム制度や在宅勤務制度の試験運用を行い、2019年8月より正式導入するなど柔軟な働き方に向けた取り組みを強化しました。

メンタルヘルスケアの推進

心の健康問題への対策として、社員とご家族を対象としたメンタルヘルスケア制度を導入しています。毎月自己の状況を確認できるストレス診断のほか、電話やWEB、面接による相談窓口の設置、メンタルヘルスマネジメント研修などを行っています。2018年度は、全社員で一斉にストレスチェックを実施しました。

セクハラ・差別行為に関する連絡・相談窓口

セクハラやその他の差別待遇、いやがらせ行為などについて、社員からの連絡・相談を受け付ける窓口を設置しています。

従業員とのかかわり

労使関係

労働組合はユニオンショップ制としており、組合員は633名、組合員比率は78.7%です(2019年3月末現在)。労働組合とは労働協約のもと相互信頼に基づいた健全な労使関係を維持し、対等の立場でさまざまな労使課題に取り組んでおり、毎月「労使協議会」を開催し、情報・意見交換を行っています。

安全衛生活動

安全衛生委員会を設置し、委員による事業所内の安全パトロールを行うなど、労働災害の撲滅、労働環境の改善に努めています。また、交通事故防止の対策として、安全運転適性検査の実施や安全運転講習会による啓発活動に取り組んでいます。2018年度の休業労働災害発生件数は0件で、連続無災害日数(不休災害を除く)は654日となりました。(2019年3月末現在)

■安全衛生活動の実績

	2016年度	2017年度	2018年度
労働災害(不休災害を除く)	0件	2件	0件
健康診断受診率	100%	100%	100%
車、バイク、自転車による人身事故	5件	3件	3件
車、バイクによる自責事故	19件	21件	23件

福利厚生の充実

社員の多様なニーズへの対応や、より公平な福利厚生サービスの提供を目的として、自身で必要なサービスを選択する選択型福利厚生制度「カフェテリアプラン」を導入しています。育児や介護、旅行など多様なメニューから割引サービスなどを受けることができます。また、社員の資産形成を支援するため、財産形成貯蓄制度では社員の積立額に対して、従業員持株会では会員の拠出金に対して、定率の奨励金を会社より支給しています。2017年より社員が病気やケガで長期間働くことができなくなった場合に一定の収入を補償するGLTD(団体長期障害所得補償保険)制度を導入しています。

従業員とのコミュニケーション

ラウンドアップ研修会の実施

全社員を対象にラウンドアップ研修会を実施しています。ラウンドアップ研修会は、社員一人ひとりが企業理念の理解を深め、より良い企業文化を形成するために毎年実施しています。2018年度は、管理職や一般社員、新入社員といった各層のプログラムに加え、世代を超えた人材を集めたプログラムなど計15回開催し、343名が参加しました。



ラウンドアップ研修会

社長メッセージ

社内ホームページに、社長メッセージを定期掲載しています。社長の考えや経営戦略の進捗などを全社員にタイムリーかつダイレクトに伝えています。また、2018年度は、社員が仕事上の悩みや課題を投稿することで直接社長に相談できる「明るい仕事相談室」を新設しました。経営層と社員の双方向のコミュニケーションを推進するとともに、価値観の共有を図っています。

社内報「プログレッシブ」の発行

全社員への企業理念THE ESPEC MINDの理解深耕や共有、事業活動の情報共有を目的とした社内報「プログレッシブ」を定期的に発行しています。



取引先さまとのかわり

取引先さまとの
より良い関係を目指して

基本方針

私たちは取引先さまと良好なパートナーシップを構築し、相互発展できる関係づくりを重視しています。取引においては、関係法令・法規を遵守し、公正・公平な取引関係のもと、グローバルな観点で国内外から必要な資材・サービスなどを適切な品質・価格・納期・環境への配慮などを総合的に判断し調達していきます。

法令の理解・遵守のために

資材調達においては「下請代金支払遅延等防止法（下請代金法）」遵守の徹底を目的として、社内教育をはじめ、さまざまな取り組みを行っています。

2018年度は、監査対象部門への定期的な自主監査を継続して実施し、懸案事項への必要な措置を講じることで、違反行為を未然に防ぐ活動に取り組みました。また、購買担当者や取引先さまと関係のある部門責任者、営業責任者を対象とした下請代金法の研修会を2回開催しました。新任配属者に対する基礎講習会も年度初めに実施するなど、全社一丸となって下請法遵守体制の強化に取り組みました。

事業継続マネジメントの取り組み

自然災害や取引先さまの倒産など不測の事態が生じた場合、お客さまへの影響を最小限に抑えるため、資産である金型の現物確認や、取引先さまの経営状況などの確認を定期的実施しています。

2018年度は、サプライヤ評価項目の見直しを行いました。従来の評価項目であるQCDESM(Q:品質、C:コスト、D:納期、E:環境、S:サービス、M:経営)に加え、コンプライアンスやBCP(事業継続計画)の取り組みも評価項目に追加しました。主要取引先さま163社に対して評価を実施し、必要に応じて現場訪問を行うことでリスク低減に努めました。また、エスペックが策定した「災害確認基準」と「初期対応方法」に基づく実践活動を継続して行いました。取引先さまの被災状況や重要部品の状況確認を迅速に実施することで生産現場への影響を最小限に抑えることができました。

「エスペック共栄会」の運営

1981年より取引先さまとの相互信頼の構築、および共存共栄を目的とした「エスペック共栄会」を組織しており、35社の取引先さまに参画いただいています。(2019年3月末現在)

2018年度は、現場力の強化を目的に、QCサークル活動の活性化に継続して取り組むとともに、さらなる品質向上に向けてお取引先の現場責任者の方を対象とした品質マネジメントシステム(QMS)説明会を開催しました。お取引先さまに当社の品質改善活動への理解を深めていただくことで、新たなQMS構築に尽力いただくなど、大変有意義な活動となりました。また、多大なご協力をいただいた取引先さまに対して、感謝の意を表する「エスペック優秀取引先表彰制度」を導入しています。2018年度は、社長賞2社・優秀賞4社・特別賞1社の取引先さまを表彰しました。



品質マネジメントシステム(QMS)説明会

グリーン調達の実施

資材調達先に対するグリーン調達においては、ISO14001認証取得をはじめとした環境マネジメントシステムの構築を条件に、環境負荷低減や環境関連法の遵守など環境管理活動を評価する指針として「エスペックグリーン調達基準書」を制定しています。2018年度は、グリーン調達認定取引先の拡大を目的に、取引先さまへの現場指導に継続して取り組みました。その結果、登録部品点数の96%を占める計122社の取引先さまが認定基準を満たすことができました。

「市況説明会」の開催

2018年6月に主要取引先さま68社をお招きし「市況説明会」を開催しました。経済動向や受注状況など、取引先さまの生産活動に必要な情報を事前に提供して共有することで、安定調達の実施に取り組みました。

株主・投資家さまとの かかわり

株主・投資家さまとの コミュニケーション

情報開示の方針・体制

会社法、金融商品取引法等関係法令、証券取引所の定める適時開示規則などに従い、情報開示を行っています。また、同規則に該当しない情報についても、私たちが理解していただくうえで役立つ情報は、積極的かつ公平に開示していきます。社内体制としては、開示情報を審議する機関として、情報開示委員会を設置しています。

開かれた株主総会に向けて

株主総会を株主さまと直接対話のできる貴重な機会であると考え、より多くの株主さまにご参加いただけるよう、集中日を避けて開催しています。

第66回定時株主総会では、131名の株主さまにご出席いただきました。総会終了後には、株主さまと役員が気軽に交流する場を設けました。2019年度は招集ご通知を法定期日より1週間前に発送しました。さらに、東京証券取引所および当社ホームページにおいて、法定期日の2週間前に早期開示を実施しました。また、議決権行使の利便性向上のため、郵送に加え、インターネット経由での行使も可能にしています。



第66回定時株主総会

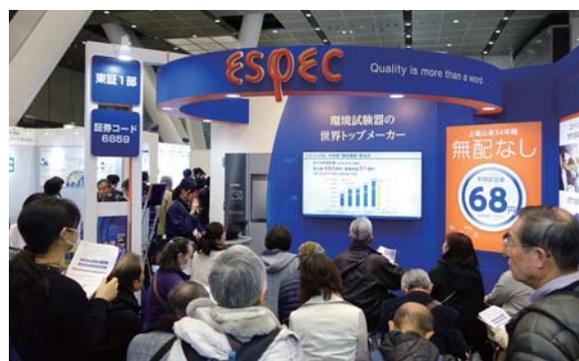
機関投資家・証券アナリスト向け決算説明会

機関投資家・証券アナリストの方を対象とした決算説明会を実施しています。説明会には社長と役員が出席し、業績や戦略などについて説明しています。

また、個別ミーティングについても東京・大阪を中心に随時行っており、2018年度は約110回実施しました。

東証IRフェスタへの出展

2019年2月に東京国際フォーラムで開催された東京証券取引所主催の個人投資家向けIRイベント「東証IRフェスタ2019」に出展しました。社長や社員による会社説明会を実施し、2日間で1,900名以上の方々にお越しいただきました。また、説明資料のわかりやすさや女性活躍推進の取り組みなどが評価され、大学投資サークルの学生による「学生が選んだIR TOP10」に選出されました。



ブース内説明会

個人投資家向け会社説明会(大阪)の開催

2019年3月、野村證券梅田支店(大阪市)において、個人投資家向け会社説明会を開催し、約140名の方々にご参加いただきました。今後も個人投資家のみなさまと情報交換をさせていただく機会を積極的に設けてまいります。

ラジオNIKKEI「アサザイ」に出演

2019年2月、ラジオNIKKEIの投資家向け番組「朝イチマーケットスクエア「アサザイ今日の1社」」に出演し、社長より私たちの事業や強みを紹介しました。

環境省「環境情報開示基盤整備事業」へ参加

企業と投資家などが環境情報を中心とした実質的な対話を行う環境省の「環境情報開示基盤整備事業～ESG対話プラットフォーム～」に参加しています。コーポレートガバナンス報告書やサステナビリティレポートなど、投資家さまへのESG情報の開示を行っています。

IRツールの充実

●株主通信

年2回発行している株主通信では、株主さまにエスペックについてよりご理解を深めていただくため、私たちのさまざまな取り組みを紹介しています。2018年度は特集記事として、新しくスタートした中期経営計画「プログレッシブ プラン2021」や人材育成の取り組みなどについて掲載しました。



第65期 株主通信

●ホームページ(IRサイト)

IRサイトでは、中期経営計画、財務・業績データ、決算説明会などの各種IRイベント資料を掲載するなど投資家のみなさまに有用な情報の発信に努めています。2018年度はホームページのリニューアルを実施し、スマートフォン対応を行いました。



IRサイト(左:PC版 右:スマホ版)

IRサイトに対する社外評価

エスペックのIRサイトは、日興アイ・アール社主催の「2018年度全上場企業ホームページ充実度ランキング調査」において、優秀サイト(総合ランキング)に認定されるなど、社外より高い評価をいただいています。



経営へのフィードバック

株主・投資家さまアンケート

会社説明会などにおいて投資家さまからご意見をいただいています。また、株主通信の送付時にアンケートを実施し、株主さまからいただいたご意見を中間株主通信で報告しています。2018年度は、1,963名の株主さまからご回答をいただきました。

市場評価のフィードバック

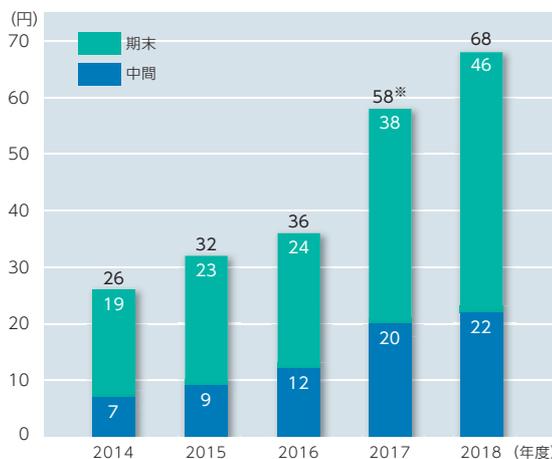
IRイベントや株主通信のアンケート結果、および個別ミーティングで伺ったご意見などをレポートにまとめ、取締役会で随時報告を行っています。市場の評価を社内にフィードバックすることで、課題を浮き彫りにし、今後のIR活動や経営の質の向上に努めています。

株主さまへの還元

利益配分に関する基本方針

私たちは、株主のみなさまへの利益還元を経営の重要課題の一つと認識するとともに、継続性と配当性向を勘案して配当を決定することを基本方針としています。2018年度の年間配当金は1株当たり68円とさせていただきます。

■1株当たり配当金



※記念配当 中間1円、期末1円含む

社会貢献

社会とのコミュニケーション

公益信託「エスペック地球環境研究・技術基金」

創業50周年となる1997年、自らの社会的責任を全うする事業として公益信託「エスペック地球環境研究・技術基金」を設置しました。地球環境保全に関する調査研究や技術開発などに対し資金援助を実施しており、これまでに240団体に対し、総額1億2,315万円の助成を行いました。

2018年度は、応募数133件の中から、19件のテーマについて助成しました。



第21回公益信託「エスペック地球環境研究・技術基金」授与式

■ 審査委員 (敬称略)

今中 忠行

京都大学 名誉教授
立命館大学 総合科学技術研究機構 上席研究員

大政 謙次

東京大学 名誉教授
高崎健康福祉大学 農学部長・教授

佐山 浩

関西学院大学 総合政策学部 教授

鈴木 胖

大阪大学 名誉教授
公益財団法人地球環境戦略研究機関 (IGES)
関西研究センター 所長

松下 和夫

京都大学 名誉教授
公益財団法人地球環境戦略研究機関 (IGES)
シニアフェロー

吉村 元男

株式会社環境事業計画研究所 会長
鳥取環境大学 元教授

■ 第21回研究テーマ

- 1 森林土壌の炭素蓄積プロセスの解明
ー微生物分解作用による炭素の放出・流出量の定量とその環境応答性ー
- 2 小型無人航空機による大型哺乳類の検出精度の推定と個体数モニタリング手法の確立
- 3 「エネルギー」を生かした持続可能なまちづくりに関する研究
ー市民の意識と市民の果たすべき役割に着目してー
- 4 北ボルネオの泥炭湿地林で優占するフタバガキ科 *Shorea albida* の起源の解明とそれに基づいた植林ガイドラインの作成
- 5 環境対応型防汚塗料開発を目的とした遠州の海洋生物資源由来付着阻害物質探索研究
- 6 RNAiを利用した外来アリ類の環境調和型新奇防除法の開発
- 7 ZIF-8ナノ結晶による水環境中過フッ素化合物吸着除去技術の開発
- 8 メタゲノミクスと機械学習を用いた外来種と在来種の判別手法の開発
- 9 南西諸島周辺の表層～中深層における無藻性イシサンゴの分布と多様性の解明
- 10 洋上風力発電に資する風況の空間代表性に関する研究
- 11 健全な緑化のための遺伝的ガイドライン
- 12 多数国間環境協定における科学的知見への対応
ー生物多様性条約/名古屋議定書レジームを中心にー
- 13 環境保全型農業を目的としたUAVによる農地土壌リモートセンシング
- 14 災害に強い太陽熱を使った分散協調型エネルギーシステムの研究
- 15 環境DNA解析による長良川におけるアユの時空間動態把握の試み
- 16 巨大地震・津波で攪乱された砂浜植生の自律的再生様態の把握とそのメカニズムを活かした合理的復元手法の検討
- 17 隧道内点検支援装置の試作研究
- 18 地球環境を支える希少微生物を生きたまま解析し保存する基盤技術の開発
- 19 エビデンスに基づく環境教育指導者の育成方法の探求
ーインタープリター研修を例としてー

公益信託の応募受付は、毎年4月より行っています。応募要項などの詳細については、エスペックのホームページの「エスペック地球環境研究・技術基金」に掲載しています。

エスペックみどりの学校

私たちはエスペックみどりの学校を開校し、全国各地でセミナーやイベントなどを開催しています。この学校は、環境教育等促進法に基づく人材認定等事業で、累計受講者数は12,282名(2019年3月末現在)となりました。



●「みどりのカーテン」出前授業を実施

福知山市のみどりのカーテン実施率向上に貢献

みどりの学校では、窓際にゴーヤを育てることで温暖化防止に取り組む「みどりのカーテン」の小学生向け出前授業や市民向けセミナーを全国で行っています。2018年度は19回実施し、943名が参加しました。エスペックでは、主力工場がある京都府福知山市が掲げる目標「みどりのカーテン日本一のまち福知山」の達成に向け、市民の方を対象とした苗の無料配布やセミナー開催など、みどりのカーテンの普及活動を行っています。その結果、2018年度の福知山市のみどりのカーテン実施率は8.3%(2,580世帯)となり、福知山市の目標の達成に大きく貢献することができました。

「復興支援ありがとうの森2020」福知山植樹祭を開催

2018年10月、福知山工場において「復興支援ありがとうの森2020」福知山植樹祭を開催しました。宮城県岩沼市の震災復興プロジェクト「千年希望の丘」は、岩沼市の沿岸部に植樹してつくる森の防潮堤です。私たちは、本プロジェクトにおいて苗木の寄贈や、社員ボランティアの参加など、継続した支援を行ってきました。こうした支援活動に対するお礼として一般社団法人森の防潮堤協会より苗木を寄贈いただけることとなり、植樹祭を開催しました。植樹祭では、森の防潮堤協会と当社社員が、生態系を乱す可能性のある外来樹種を除去した場所に在来広葉樹の苗を植えました。



植樹風景

宇都宮市青少年健全育成推進事業者表彰を受賞

2019年1月、宇都宮テクノコンプレックスが、青少年の健全育成に貢献する活動をしている事業者として宇都宮市から「平成30年度 宇都宮市青少年健全育成推進事業者表彰」を受賞しました。独自の取り組みとして環境フェスティバルを開催するなど、環境への取り組みを積極的に発信して地域と協働で体験の機会を提供していることが評価されました。



表彰式

「高校生のためのフューチャーフォーラム」への参加

2019年7月、西舞鶴高等学校において京都府・京都経営者協会主催の京都のリケジョ応援プログラム「高校生のためのフューチャーフォーラム」が開催され、当社の女性社員2名が講師として参加しました。本プログラムは、女子高校生がロールモデルとなる大学生や先端技術に取り組む企業で働く女性研究者・技術者との交流を通じて、具体的な未来像を描いてもらうことを目的としています。



高校生のためのフューチャーフォーラム

豪雨災害義援金の寄付

2018年7月に発生した西日本を中心とした豪雨被害の復興に役立てていただくため、日本赤十字社を通じ、被災地に対して50万円の災害義援金を寄付しました。

環境マネジメント

環境基本方針

私たちは、環境宣言「エスペックは、かけがえのないこの地球を決して傷つけない。単に環境に負荷をかけず、素晴らしいサービスを提供するか、という範囲にとどまってはならない。いかに環境に役に立つか、という視点こそエスペックたるゆえんである」に基づき、真摯

に環境保護・保全・改善に取り組んでいます。

1996年4月に、全社環境基本方針を定め、以降世の中の動向、ステークホルダーのみなさまからの要請、自社の活動実績を踏まえ、改訂を重ねています。

エスペック環境基本方針

環境宣言

エスペックは、かけがえのないこの地球を決して傷つけない。
単に環境に負荷をかけず、素晴らしいサービスを提供するか、という範囲にとどまってはならない。
いかに環境に役に立つか、という視点こそエスペックたるゆえんである。

基本理念

エスペックは、環境保護・保全・改善が企業経営の最重要課題のひとつであることを認識します。
よって、エスペックは、以下の方針に基づき、地球温暖化の防止、資源循環の促進、生物多様性の保全ならびに環境への汚染防止に努めるとともに、環境マネジメント活動、製品・サービスの継続的改善を図ります。
そして、環境試験装置、電子デバイス装置およびエナジーデバイス装置などの製造、販売、メンテナンス、及び受託試験の提供で、低炭素技術などを開発されているお客さまに貢献することで持続可能な社会の実現に寄与します。また、植物を用いたビジネスの提供により生物多様性豊かな社会への貢献を目指します。

基本方針

1. 地球温暖化防止への貢献を目指し、技術開発、製品及びサービスの開発を行い、お客さまに提供します。
2. 設計・製造・販売・メンテナンス・事務活動における環境負荷低減によって、地球環境保全に貢献します。
3. 企業活動にて発生する排出物と製品の3R(リデュース・リユース・リサイクル)に努めるとともに、製品ライフサイクルの視点で環境効率のさらなる向上を目指し、循環型社会の実現に寄与します。
4. 事業活動・製品・サービスの有害物質の管理やグリーン調達によって、環境への汚染防止に努めます。
5. 持続可能な社会の実現のために、生物多様性に取り組むお客さまへ製品・サービスの提供を行うとともに、環境のことを考え・行動する人づくりの実践に取り組みます。
6. 環境関連法規制ならびに組織が同意したその他の要求事項などの遵守はもとより、必要に応じて自主基準を設定し、環境リスクマネジメントに取り組みます。

これらを実現するために、技術的・経済的に可能な範囲で環境目的・環境目標を設定し活動するとともに、環境マネジメントシステムを定期的に見直します。

2019年4月1日

代表取締役社長

石田 雅昭

●この環境方針は組織で動く全ての人に周知するとともに、社外に公表します

環境中期計画

第7次環境中期計画に基づき、環境経営を推進

私たちは、事業活動を通じて持続可能な社会の実現に貢献していくため「第7次環境中期計画」(計画実施期間:2018~2021年度)を策定し、取り組んでいます。本計画では「地球温暖化防止への貢献(製品・サービスの提供)」「環境負荷低減」「エコサイト・エコオペレーション」「汚染防止」「生物多様性保全・社会貢献」の5つのテーマで目標を掲げ、低炭素技術開発分野への製品・サービスの提供や、環境配慮型製品の開発・提供、事業活動における省エネルギー化・省資源化、環境保全事業の拡大などに取り組み、環境経営をさらに推進してまいります。

2018年度 報告

2018年度は第7次環境中期計画の初年度として、環境目的・目標の達成に向けてさまざまな取り組みを推進しました。重点テーマの一つである「地球温暖化防止」においては、国内環境試験器メーカーで初めてとなる製品における低GWP冷媒への置き換えを行い、推進してまいりました。また、省エネ製品の販売によるお客さま先でのCO₂排出抑制貢献量は、目標の7,900tに対し、8,408tのCO₂抑制となり、目標を大幅に達成することができました。

エスペックの環境経営は、日本経済新聞社が実施した2019年版「環境経営度調査」製造業ランキングにおいて、85位に評価されました。この調査は、日本経済新聞社が企業の環境経営を総合的に分析して環境対策と経営を両立させる取り組みを評価するもので、毎年ランキング形式で紙面発表しているものです。評価項目である「環境経営推進体制」や「生物多様性保全」では高い評価をいただくことができましたが「資源循環」や「温暖化対策」については、引き続き環境中期計画のテーマとして取り組んでまいります。

※ 第7次環境中期計画および年度目標・実績の詳細についてはP.33・34をご覧ください。

環境マネジメント推進体制

ISO14001の認証取得

私たちは、1996年の「環境管理」導入後、事業所単位でISO14001認証取得を積み重ね、継続して環境ガバナンスの強化を図ってきました。2017年度には、エスペックテストシステム、エスペック九州、エスペックミックの国内グループ3社を含めた統合認証を取得しました。

■ISO14001の審査登録状況

社名	取得年月日
エスペックグループ (エスペック株式会社)	2018年1月26日 (1996年12月26日)
上海愛斯佩克環境設備有限公司	2004年9月8日
愛斯佩克試験儀器(広東)有限公司	2016年10月13日

全社環境管理委員会

1996年度から全社環境管理委員会を設置しています。委員長には社長、副委員長には環境管理責任者が就任し、全社共通の目標管理、各種案件の審議などを行っています。ここでの決定が、それぞれの会社、事業所、事業部に展開され、活動が推進されます。

環境啓発活動

全社環境大会

6月5日の「世界環境デー」を含む週を「エスペック環境ウィーク」に設定し、全社環境大会をはじめ、さまざまな環境啓発活動を行っています。2019年の全社環境大会では、第7次環境中期計画についての説明のほか、環境表彰、外部講師による特別講演などを行いました。

環境社会検定試験(eco検定)資格の取得奨励

幅広い知識を持って環境問題に取り組む人づくりを目的としてeco検定の取得を奨励しています。2018年度の資格取得率は、管理職99%、正社員80%です。2019年度からはエコユニットとして登録しています。



エコユニットマーク

環境マネジメント

第7次環境中期計画 / 2018年度 目標・実績 / 2019年度 目標

目的・目標テーマ	第7次環境中期計画 環境目的 (2018~2021年度)	2018年度
		環境目標
1 地球温暖化防止への貢献 (製品・サービスの提供)	<ul style="list-style-type: none"> 全ての製品において低GWP冷媒への置き換えを実施します 	<ul style="list-style-type: none"> 製品における低GWP冷媒への置き換えを実施します 3機種実施完了
	<ul style="list-style-type: none"> 省エネ製品の販売により、CO₂排出抑制に貢献します CO₂排出抑制貢献量 8,200t 	<ul style="list-style-type: none"> 省エネ製品の販売により、CO₂排出抑制に貢献します CO₂排出抑制貢献量 7,900t
	<ul style="list-style-type: none"> 新たなエネルギーデバイスの開発に合わせた専用装置を開発し、お客さまに提供します 専用装置5機種の開発・市場投入による売上拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 新たなエネルギーデバイスの開発に合わせた専用装置を開発し、お客さまに提供します 専用装置2機種の開発・市場投入
	<ul style="list-style-type: none"> 新排ガス規制に向けエコカーや電動化技術を開発されるお客さまに製品を提供します <ul style="list-style-type: none"> ①自動車市場向け装置の売上拡大 ②自動車市場向け受託試験の売上拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 新排ガス規制に向けエコカーや電動化技術を開発されるお客さまに製品を提供します <ul style="list-style-type: none"> ①自動車市場向け装置の売上拡大 ②自動車市場向け受託試験の売上拡大
2 環境負荷低減	<ul style="list-style-type: none"> 製品のライフサイクルの視点で環境負荷を低減します ※2019年度より新規追加 	—
	<ul style="list-style-type: none"> 予防保全による製品性能の維持と省エネ推進に関わるサービス・技術を開発します 	<ul style="list-style-type: none"> お客さまの潜在ニーズを先取りしたサービスメニューのための技術開発を行います
	<ul style="list-style-type: none"> お客さま先試験室での排熱処理に関わる技術を開発し、エネルギーの削減に貢献します 	<ul style="list-style-type: none"> 製品による環境負荷低減に向けた技術開発を行います
	<ul style="list-style-type: none"> ノンフロン発泡断熱材への切り替えにより、製品の環境負荷低減とリサイクル容易性の向上に貢献します 	<ul style="list-style-type: none"> ノンフロン発泡断熱材への切り替えにより、製品の環境負荷低減とリサイクル容易性の向上に貢献します
	<ul style="list-style-type: none"> 部品のリユース再生技術を開発し環境負荷低減に努めます <ul style="list-style-type: none"> ①計装基板2種類実施完了 ②棚板リユース4種類実施完了 	<ul style="list-style-type: none"> 部品のリユース再生技術を開発し環境負荷低減に努めます <ul style="list-style-type: none"> ①計装基板のリユース実施 ②ステンレス棚板の再生利用の仕組みの構築
3 エコサイト・エコオペレーション	<ul style="list-style-type: none"> 製造および受託試験でのCO₂排出量 (原単位) を削減します 2012年度比 原単位23.3%改善 	<ul style="list-style-type: none"> 製造および受託試験でのCO₂排出量 (原単位) を削減します 2012年度比 原単位21.2%改善
	<ul style="list-style-type: none"> 製造およびグローバル調達に拡大に伴う排出物の増加を抑制します 2017年度比4%削減 	<ul style="list-style-type: none"> 福知山工場排出物総量を2017年度比で1%削減します
4 汚染防止	<ul style="list-style-type: none"> PRTR規制対象物質を基準値1.0t以下とします 	<ul style="list-style-type: none"> 1-プロモプロパン(アブゾール)の使用を2016年度比で30%削減します
	<ul style="list-style-type: none"> グローバル市場向け製品をRoHS規制対応品とします 15機種 	<ul style="list-style-type: none"> グローバル市場向け製品をRoHS規制対応品とします 3機種実施完了
	<ul style="list-style-type: none"> カスタム仕様製品をRoHS規制対応品とします 4機種 	<ul style="list-style-type: none"> カスタム仕様製品をRoHS規制対応品とします RoHS規制対応に向けた企画
	<ul style="list-style-type: none"> 社内情報システムを活用したグループ間の部品情報の連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> SDS (製品安全データシート) の情報システム連携を完了します
5 生物多様性保全・社会貢献	<ul style="list-style-type: none"> 自然再生事業により生物多様性保全を推進します 企業向け事業所敷地・保有林での受注件数20件 	<ul style="list-style-type: none"> 企業向け事業所敷地・保有森林の簡易多様性評価・保全事業を拡大します PR件数 80社
	<ul style="list-style-type: none"> 京都モデルフォレスト活動を通じて、毛原の森を持続可能な森へと整備します 	<ul style="list-style-type: none"> 京都モデルフォレスト活動を通じて、毛原の森を持続可能な森へと整備します 毛原の森活動参加人数 160名以上
	<ul style="list-style-type: none"> KRCバンビの里およびエスペックミック在来種育成ラボをエスペックの生物多様性保全の教育・普及の場として、生物多様性に取り組むお客さまや市民に広くご活用いただけるように整備します バンビの里およびエスペックミック在来種育成ラボへの誘引人数 500名 	<ul style="list-style-type: none"> KRCバンビの里およびエスペックミック在来種育成ラボをエスペックの生物多様性保全の教育・普及の場として、生物多様性に取り組むお客さまや市民に広くご活用いただけるように整備します <ul style="list-style-type: none"> ①バンビの里への誘引人数 80人 ②エスペックミック在来種育成ラボへの誘引人数 20人
	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な社会実現のために、子どもから大人まで幅広い「環境のことを考え・行動する人づくり」を実践します <ul style="list-style-type: none"> ①エコ検定管理職合格率100%の維持 ②社員向け環境教育体系を策定 ③命を守る森づくりセミナーへ企業の環境管理担当者の参加誘引 	<ul style="list-style-type: none"> 「エスペックみどりの学校」のさらなるレベルアップを図ります <ul style="list-style-type: none"> ①エコ検定管理職合格率100%の維持 ②社員向け環境教育体系を策定 ③命を守る森づくりセミナーへ企業の環境管理担当者の参加誘引
	<ul style="list-style-type: none"> 公益信託「エスペック地球環境研究・技術基金」による助成を充実します 累積助成件数 281件以上 	<ul style="list-style-type: none"> 公益信託「エスペック地球環境研究・技術基金」による助成を充実します 年間助成件数 15件以上

2018年度 実績	2019年度 環境目標
3機種実施完了	<ul style="list-style-type: none"> 製品における低GWP冷媒への置き換えを実施します 3機種以上実施完了 低GWP搭載装置の販売台数拡大
CO ₂ 排出抑制貢献量 8,408t	<ul style="list-style-type: none"> 省エネ製品の販売により、CO₂排出抑制に貢献します CO₂排出抑制貢献量 8,000t
専用装置2機種開発・市場投入	<ul style="list-style-type: none"> 新たなエナジーデバイスの開発に合わせた専用装置を開発し、お客さまに提供します 専用装置3機種の開発・市場投入
①自動車市場向け装置売上高 目標達成率 104% ②自動車市場向け受託試験売上高 目標達成率 91%	<ul style="list-style-type: none"> 新排ガス規制に向けエコカーや電動化技術を開発されるお客さまに製品を提供します ①自動車市場向け装置の売上拡大 ②自動車市場向け受託試験の売上拡大
—————	<ul style="list-style-type: none"> 環境配慮開発設計ガイドライン改訂と全社への教育・周知を行います
技術開発テーマ 1件実施完了	<ul style="list-style-type: none"> お客さまの潜在ニーズを先取りしたサービスメニューのための技術開発を行います
技術開発計画の策定完了	<ul style="list-style-type: none"> 製品による環境負荷低減に向けた技術開発を行います
ノンフロン発泡断熱切替に向けた調査・検討を実施	<ul style="list-style-type: none"> ノンフロン発泡断熱材への切り替えにより、製品の環境負荷低減とリサイクル容易性の向上に貢献します
①計装基板のリユース 実施準備完了 ②ステンレス棚板の再生利用の仕組み 構築完了	<ul style="list-style-type: none"> 部品のリユース再生技術を開発し環境負荷低減に努めます ①計装基板再生率80%以上、計装基板の再生体制の確立と実務運用の開始 ②2018年度に実施完了済み
2012年度比 原単位20%改善	<ul style="list-style-type: none"> 製造および受託試験でのCO₂排出量(原単位)を削減します 2012年度比 原単位21.9%改善
2017年度比 8.5%削減 福知山排出物総量:568.0t(2017年度621.0t)	<ul style="list-style-type: none"> 福知山工場排出物総量を2017年度比で2%削減します
1-プロモプロパン(アブゾール)使用量 7.4t	<ul style="list-style-type: none"> 1-プロモプロパン(アブゾール)の使用量を2016年度比で80%削減します
2機種実施完了	<ul style="list-style-type: none"> グローバル市場向け製品をRoHS規制対応品とします 4機種実施完了
実施計画の策定完了	<ul style="list-style-type: none"> カスタム仕様製品をRoHS規制対応品とします 2機種実施完了
SDSの情報システム連携 実施完了	<ul style="list-style-type: none"> 社内情報システムを活用した部品情報共有に向けての現状把握と実施計画の策定を行います
PR件数108社 5件受注	<ul style="list-style-type: none"> 企業向け事業所敷地・保有森林の簡易多様性評価・保全事業を拡大します PR件数100社
参加人数 166名	<ul style="list-style-type: none"> 京都モデルフォレスト活動を通じて、毛原の森を持続可能な森へと整備します 毛原の森活動参加人数 180名以上
①バンビの里への誘引人数 138人 ②エスペックミック在来種育成ラボへの誘引人数 57人	<ul style="list-style-type: none"> KRCバンビの里およびエスペックミック在来種育成ラボをエスペックの生物多様性保全の教育・普及の場として、生物多様性に取り組むお客さまや市民に広くご活用いただけるように整備します ①バンビの里への誘引人数 150人 ②エスペックミック在来種育成ラボへの誘引人数 80人
①99.4% ②教育体系の策定完了 ③企業向け森づくりセミナーを開催	<ul style="list-style-type: none"> 「エスペックみどりの学校」のさらなるレベルアップを図ります ①エコ検定管理職合格率100%の維持 ②環境法規制に対する管理職の理解度を深めるための仕組みの策定 ③企業向け生物多様性・森づくりセミナーを開催し企業の環境管理担当者の参加誘引 年2回開催
年間助成件数 19件	<ul style="list-style-type: none"> 公益信託「エスペック地球環境研究・技術基金」による助成を充実します 年間助成件数 15件以上

環境に配慮した製品

環境配慮型製品の創出

製品開発の基本的な考え方

私たちは、早くから地球環境保全に関心を持ち、製品の運転時の消費電力量低減や化学物質の適正使用、製品廃棄時における環境負荷低減などの問題に取り組んできました。その姿勢は今も変わらず、主力製品「環境試験器」が抱えている環境面での課題を明確にし、これらを解決する「環境配慮型製品」の開発を継続的に行っています。その基本的な指針となるのが「環境配慮開発設計ガイドライン」です。制定以来、安全・品質・価格・環境・納期の全てに満足する製品を開発することを基本とし、時代とともに改訂を重ねています。これからも地球環境に配慮した製品の創出を通じて、社会やお客さまに貢献することを目標に活動していきます。

■ 環境配慮開発設計ガイドラインの主な内容

- 環境配慮設計の管理項目 (基本的な考え方)
- 法規制への対応
- ライフサイクルアセスメント (手順や評価など)
- 環境ラベル (種類と内容)

リサイクルへの取り組み

当社製品は、金属材料と樹脂材料で構成しており、廃棄の際の分別が困難で、廃棄物処分場に負担をかけています。開発段階から製品のリサイクルを考え、解体・分別しやすい構造や樹脂部分の材質マーキングなどを新製品・モデルチェンジ品に順次適用しています。

冷媒フロンへの取り組み

エスペックでは、1995年のCFCフロン全廃規制に先駆け、1994年にCFCフロンを製品・工場から排除しました。2000年には、製品の冷凍回路のHFCフロンへの転換を完了させています。2017年度には国内環境試験器メーカーで初めて低GWP (地球温暖化係数) 冷媒を搭載した製品を開発し、以降、製品ラインアップの拡充を進めています。

化学物質の適正使用

危険有害化学物質排除に向けて

製品設計に当たり使用禁止物質を指定し、有害物質の使用を削減してきました。

EU-RoHS指令における6品目の有害物質については、2017年7月22日以降、当社製品は規制の対象となりましたが、2013年から順次自主的にEU-RoHS対応製品の提供を行っています。2018年度は、RoHS対応の新製品として、ハイパワー恒温 (恒湿) 器 ARシリーズ 急速温度変化タイプの開発を行いました。また、水銀に関する条約に対応するため、製品に使用している該当部品を、2020年までに全廃するよう技術開発を進めます。

PRTR法 (化学物質排出移動量届出制度) への対応

エスペックでは、数百種類の危険有害化学物質を使用しています (当社基準に基づく選定)。これらに対し、SDS^{*}の配備、使用・保管に関する手順書の整備、より安全性の高い物質への置き換えの促進など、適正な管理を実施しています。化学物質の移動量管理については、自主管理基準で1kg以上を集計単位として管理しています。2018年度は「1-ブロモプロパン」が7.4tとなったため報告を行いました。この物質については、従業員の安全や環境負荷を考慮し、2019年5月で使用を禁止し、全廃しました。

* 化学物質等安全データシート (Safety Data Sheet)。化学物質の安全な使用・取り扱いをするために必要な情報を記載した資料。

アスベスト対応

過去の製品において断熱材やパッキンの一部にアスベスト含有部材を使用していた時期があります。2006年6月末までに全ての製品においてアスベスト含有部材の使用を取り止めています。従来から製品をご利用いただいているお客さまに対しては、製品のアスベストに関する情報を、ホームページや個別対応にて情報公開しています。

環境配慮型製品

低GWP冷媒を搭載した環境試験器を拡充

地球温暖化への影響がより小さい低GWP（地球温暖化係数）冷媒を搭載した環境試験器の開発を進めています。2017年度、国内環境試験器メーカーで初めて欧州のFガス規制に適合した低GWP冷媒「R-449A（GWP1397）」を搭載した「冷熱衝撃装置 TSAシリーズ（水冷式）」を発売しました。2018年度は「ハイパワー恒温（恒湿）器 ARシリーズ スタンダードタイプ」や「小型環境試験器」などを新たに発売しました。2020年度までに全製品の対応を完了する予定です。



ハイパワー恒温（恒湿）器 ARシリーズ
スタンダードタイプ

低GWPラベル

温室効果ガスの排出抑制に貢献するため、2018年9月よりエスペック株式会社が販売する製品を対象に「低GWPラベル」制度を開始しました。「低GWPラベル」は、製品に充てんする冷媒に対して、地球温暖化係数（GWP）がより低い代替冷媒を当社が認定し、その冷媒を使用した製品を示します。

■ 低GWP冷媒の認定基準

GWP2500未満とし、かつ冷媒種類に応じて、それぞれ低GWP冷媒として開発された冷媒の中から、当社製品に使用可能と判断した冷媒



■ 認定された低GWP冷媒（2018年9月12日現在）

- R449A（GWP 1397） < R404A（GWP 3920）の代替冷媒 >
- R452A（GWP 2141） < R404A（GWP 3920）の代替冷媒 >
- R448A（GWP 1387） < R404A（GWP 3920）の代替冷媒 >

※ GWPIはIPCC第4次報告書に基づく

グリーンプロダクトラベル

2009年度より、環境配慮型製品の開発促進と製品に関する環境情報の積極的な公開を目指し、エスペックが定める環境配慮認定基準を満たした製品を「グリーンプロダクト」と認定し、環境ラベルを貼付するグリーンプロダクトラベル制度を実施しています。

■ グリーンプロダクトラベル認定基準

従来製品との消費電力比較：省エネ15%以上
（当社指定運転パターン／従来比）



「低GWPラベル」および「グリーンプロダクトラベル」は、国際標準化機構（ISO）で定められた環境ラベルのうち、自己宣言型（タイプⅡ）の環境ラベル（ISO/JISQ14021）に相当するものです。

グリーンプロダクトラベル認定製品事例

● 恒温（恒湿）器 プラチナスJシリーズ

Smart R&D（冷凍&除湿）システムを搭載し、省エネルギーと高信頼性を実現しました。第33回優秀省エネルギー機器「日本機械工業連合会会長賞」を受賞しています。



優秀省エネルギー機器

日本機械工業連合会会長賞
平成24年度 日本機械工業連合会



※省エネ率は、当社指定運転パターンにおける計測。従来比。

※その他の認定製品や各製品の型式ごとの消費電力および従来比省エネ率についてはエスペックのホームページをご覧ください。

環境に配慮した工程

事業活動における 環境配慮の取り組み

サービスでの取り組み

●製品回収

環境大臣より広域認定制度の認定を受け「製品リサイクルサービス」を行っています。このサービスは、お客さま先で使用済みとなったエスパックの環境試験器について、お客さまと「産業廃棄物処理委託契約」を締結し、有償にて製品を回収し、再資源化するものです。これにより、お客さまの廃棄手続きにかかる負担の軽減を図るとともに、廃棄物を適正にリサイクル処理します。2018年度は使用済み製品を329台回収しました。

●フロン回収

1995年度から修理・廃棄時のフロン回収を行っています。「フロン排出抑制法」に基づく第一種フロン類充填回収業者登録を全国の自治体にて行っています。回収した冷媒フロンは、フロン類破壊処理業者にて高温プラズマ破壊などの処理を行い無害化します。これらの累計回収量は、約65t(2019年3月末現在)にもおよびます。

■フロン回収量



物流での取り組み

●資材調達時の取り組み

取引先さまと共同して資材・部品納入に伴う梱包材、緩衝材を削減するため通い箱の利用を進めています。また、緩衝材などを社内で再使用する取り組みにより、廃プラスチックの量を削減することができました。

●製品輸送時の取り組み

地球温暖化を防ぐためにモーダルシフト(鉄道輸送の活用)を進めています。大阪を起点に、北海道、東北、九州、東京といった長距離輸送において、トラック輸送から貨物輸送への切り替えを行っています。

事業所での取り組み

●ゼロエMISSIONの達成

各事業所において、ゼロエMISSION(リサイクル率99%以上)達成を目指しており、2018年度は全事業所で達成しました。今後もゼロエMISSIONの状態を維持していきます。

●事務用紙の削減

大切な森林資源を守るために、事業所における紙の削減に取り組んでいます。これまで、製品の取扱説明書を電子化して大幅に紙を削減しています。また、カスタム製品の標準化を進め、図面用紙の削減に取り組んでいます。その結果、2018年度は698万枚(2017年度716万枚)と前年度比で削減することができました。

●社有車のガソリン削減

社有車の使用に伴うCO₂の排出量は、全体の約8%を占めています。2018年度は業績が好調に推移し、営業活動も活発となりましたが、公共交通機関の利用や低燃費車への切り替え、エコ運転の推進により、ガソリン使用量は、343kℓ(2017年度 341kℓ)と前年度と同水準とすることができました。



生物多様性保全

生物多様性保全に向けた取り組み

エスペックみどりの学校



森づくりのリーダー養成セミナー

2011年度より「エスペックの森^{*}」を研修の場として「エスペックみどりの学校・命を守る森づくり推進リーダー養成セミナー」を関西学院大学の協賛を得て実施しています。本セミナーは、座学と実習で構成したプログラムで春・夏・秋・冬の年4回開催しており、同大学のカリキュラムとして採用されています。2017年度からは、受講対象者を関西学院大学の学生に加え、企業の環境保全担当者やNPO、NGO、一般の方にもまで門戸を開き、命を守る森づくりによる生物多様性保全活動についてより広く発信をしています。

^{*} 1999年より神戸R&Dセンター敷地内に在来の苗木を植樹し、育てた森

京都モデルフォレスト活動 ～毛原の森づくり活動～

エスペックは、福知山市大江町毛原自治会と森林保全協定を結び「毛原の森づくり活動」として毛原地区の森林保全活動に取り組んでいます。2007年より開始したこの活動には、これまで社員ボランティアなど1,000人以上が参加しています。



^{*}「毛原の森づくり活動」は、環境省が全体事務局を行う「国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J)」が推奨する事業として認定を受けています。

企業の森・緑地診断プログラムの開発と提供

企業の森や緑地を診断し、今後の生物多様性保全活動についてアドバイスを行う新たなプログラムをエスペックミックとの協働で開発し、提案を行っています。その土地ならではの魅力や課題を、自然再生の専門家の視点で抽出し、活動計画に活かしていただくことが可能です。生物多様性保全活動のきっかけづくりとしても利用いただけるよう導入しやすい簡易プログラムを提供しており、導入いただいた企業にはご好評いただいています。



企業の森の診断調査

生物多様性ワーキンググループへの参画

2015年度から「電機・電子4団体^{*}環境戦略連絡会生物多様性ワーキンググループ^{*}」に参画しています。業界団体で連携して生物多様性保全活動を推進するとともに、同じワーキンググループの先進的な活動を参考にすることで、自社の取り組みのさらなるレベルアップを図っています。2018年度、エスペックはこのワーキンググループの主査として、エジプトで開催されたCOP14 (生物多様性条約第14回締約国会議)のサイドイベントで活動事例発表を行い、その中でエスペックの活動についてもご紹介しました。

^{*} P.14のESPEC NEWSもご覧ください。

^{*} 電機・電子4団体：一般社団法人日本電機工業会 (JEMA)、一般社団法人電子情報技術産業協会 (JEITA)、一般社団法人情報通信ネットワーク産業協会 (CIAJ)、一般社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会 (JBMIA)

^{*} 電機・電子4団体 環境戦略連絡会 生物多様性ワーキンググループ
<https://www.jema-net.or.jp/Japanese/env/biodiversity.html>

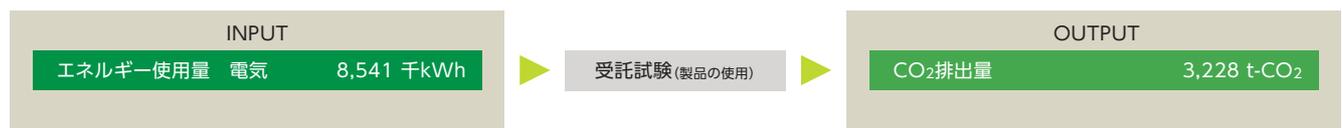
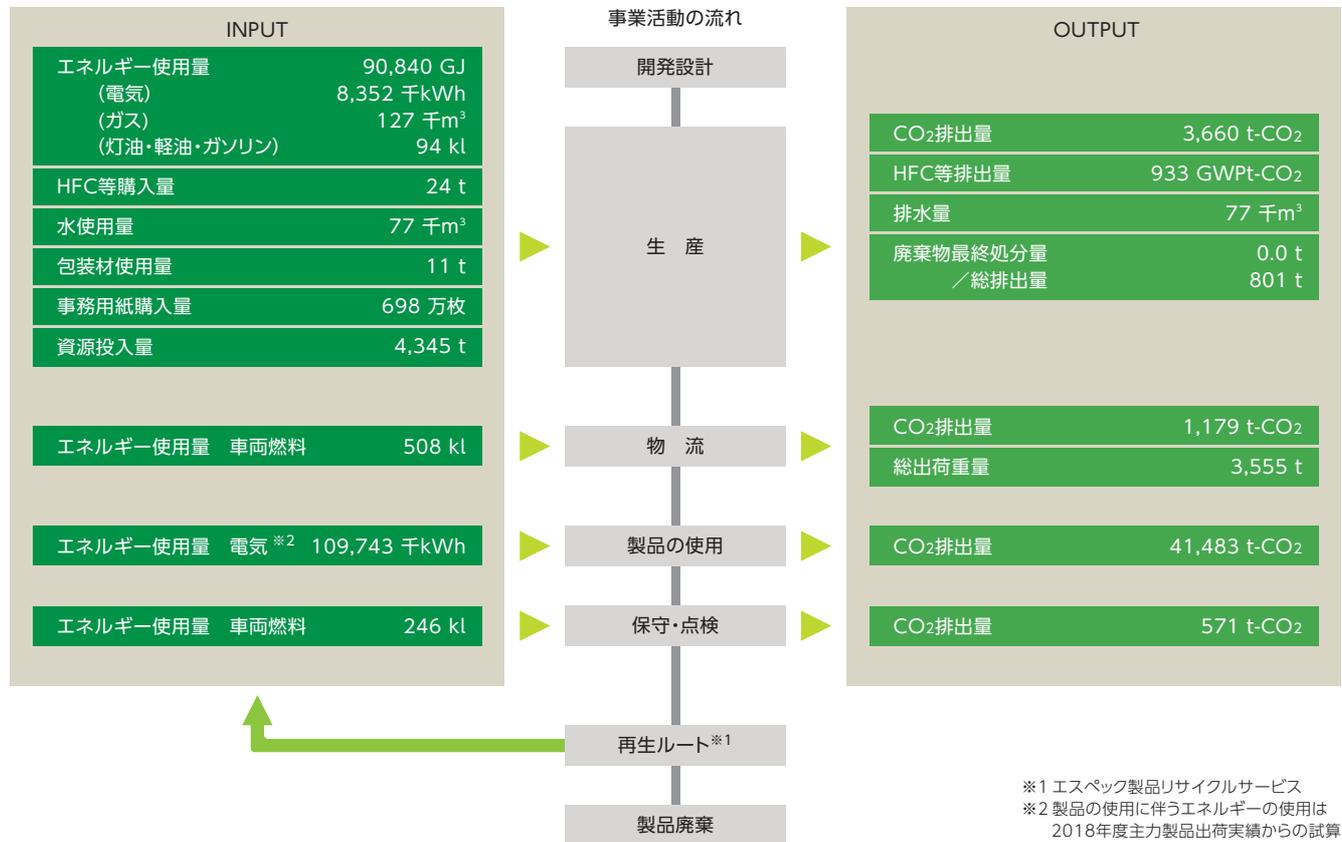
野生動物による被害を考える取り組み

近年、野生動物による森林被害が増加しています。なかでも野生の鹿が農作物を食い荒らす被害は深刻度を増しています。私たちは、福知山工場の社員食堂において、国産ジビエ認証1号を取得した「鹿肉のかきうち」の地元の野生鹿肉を用いて、昼食メニューを提供しています。2013年より開始したこの活動は、獣害を身近な問題として考えることを目的としており、2018年度までに累計35回、1,078名に提供しました。



事業活動の マテリアルバランス

■ 2018年度実績



■ 算出根拠

換算係数	熱量換算	CO ₂ 換算
① 電力	千kWh=9.82 GJ	千kWh=0.378 t-CO ₂
② 長田野ガス	千m ³ =45.0 GJ	千m ³ =2.29 t-CO ₂
③ 都市ガス	千m ³ =41.1 GJ	千m ³ =2.11 t-CO ₂
④ LPガス	千m ³ =100 GJ	千m ³ =5.98 t-CO ₂
⑤ 軽油	1kl=38.2 GJ	1kl=2.62 t-CO ₂
⑥ ガソリン	1kl=34.6 GJ	1kl=2.32 t-CO ₂

「事業者からの温室効果ガス排出量算定方法ガイドライン」(環境省)を参考に設定

実績データ

■2018年度 サイト別データ

	本 社	福知山工場	神戸R&Dセンター	宇都宮テクノコンプレックス	全国の営業所・事業所計 18拠点合計	豊田試験所 刈谷試験所	エスベック テスト システム(株)	エスベック 九州(株) 本社・大分支社	エスベック ミック(株)	ISO14001 一括取得対象 32事業所
地域区分	商業地域	工業専用地域	準工業地域	工業専用地域	—	—	—	—	—	—
主な業務・生産物	環境試験装置・電子デバイス装置の販売、開発、設計ならびに資材・部品の購買業務	環境試験装置・電子デバイス装置の製造	技術開発、受託試験および環境試験装置の製造	環境試験装置・電子デバイス装置等の販売、メンテナンス(点検・保守)受託試験、製品レンタル	環境試験装置・電子デバイス装置等の販売、メンテナンス(点検・保守)	受託試験 製品レンタル	環境試験装置の開発設計、生産、営業	理化学機器・計測器・分析装置・環境試験器・研究設備品・分析汎用機器等の販売および付帯サービス	自然再生事業 植物工場事業	—
排出物の発生量(総量) ^{※1}	12.7 t	568.0 t	14.0 t	37.6 t	98.3 t	4.2 t	4.3 t	7.2 t	54.3 t	800.6 t
産業廃棄物量(特管物含む)	0.1 t	144.1 t	7.2 t	25.8 t	76.0 t	3.3 t	3.6 t	0.4 t	44.0 t	304.6 t
うち埋立物	0.1 t	1.1 t	0.1 t	0.0 t	0.1 t	—	—	—	—	1.3 t
事業系一般廃棄物量	12.6 t	91.8 t	1.6 t	6.4 t	5.2 t	0.9 t	0.5 t	6.3 t	10.4 t	135.5 t
有価物	—	332.1 t	5.2 t	5.4 t	17.1 t	—	0.2 t	0.5 t	—	360.5 t
電力	393 千kWh	4,781 千kWh	3,161 千kWh	3,578 千kWh	306 千kWh	4,674 千kWh	150 千kWh	36 千kWh	561 千kWh	17,640 千kWh
ガス使用量	469 m ³	78,374 m ³	47,105 m ³	—	725 m ³	0 m ³	12 m ³	16 m ³	2 m ³	126,703 m ³
事務用紙購入量	269 万枚 ^{※2}	249 万枚	29 万枚	11 万枚	95 万枚	2 万枚	10 万枚	14 万枚	19 万枚	698 万枚
水使用量	2,001 m ³	43,810 m ³	14,551 m ³	6,748 m ³	1,540 m ³	6,712 m ³	275 m ³	225 m ³	949 m ³	76,811 m ³
社有車保有台数	7 台	7 台	7 台	14 台	159 台	3 台	4 台	17 台	17 台	235 台
うちハイブリッドカー	4 台	4 台	5 台	5 台	39 台	1 台	1 台	0 台	3 台	62 台
燃料使用量(ガソリン)	11 kℓ	6 kℓ	5 kℓ	15 kℓ	249 kℓ	1 kℓ	4 kℓ	24 kℓ	25 kℓ	341 kℓ
走行距離	176,209 km	124,145 km	102,777 km	197,431 km	3,562,301 km	22,962 km	61,355 km	329,012 km	400,767 km	4,976,959 km
順法への対応	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合
地域からのクレームなど	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし

※1 お客さま先での作業時発生分を含む
 ※2 寝屋川ビジネスセンター分を含む

■2018年度 全社PRTR実績

(単位:t)

第1種指定化学物質の名称	1-ブロモプロパン	
第1種指定化学物質の号番号	384	
年間取扱量	7.4	
製品への含有分(自主測定項目)	—	
リサイクル分(売却分)(自主測定項目)	—	
排出量	イ) 大気への年間排出量	7.4
	ロ) 公共用水域への年間排出量	—
	ハ) 当該事業所における土壌への排出 二) 以外	—
	ニ) 当該事業所における埋立処分	—
移動量	イ) 下水道への移動	—
	ロ) 当該事業所の外への移動 一) 以外	—

※ 第1種指定化学物質のうち、年間取扱量が1t以上となり届出したものは上記のとおりです

環境会計

集計範囲：エスペック株式会社、エスペックテストシステム株式会社、エスペック九州株式会社、エスペックミック株式会社

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日

■環境保全コスト

(単位:千円)

分類	主な取り組みの内容	2017年度		2018年度	
		投資額	費用額	投資額	費用額
(1) 生産・サービス活動により事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト(事業エリア内コスト)		13,981	50,046	48,120	58,012
内訳	①公害防止コスト	—	5,833	9,480	4,794
	②地球環境保全コスト	13,329	28,330	38,640	35,675
	③資源循環コスト	653	15,883	0	17,543
(2) 生産・サービス活動に伴って上流又は下流で生じる環境負荷を抑制するためのコスト(上・下流コスト)		—	—	—	—
(3) 管理活動における環境保全コスト(管理活動コスト)	ISO14001運用経費、グループ認証審査費用	—	84,134	—	79,437
(4) 研究開発活動における環境保全コスト(研究開発コスト)	環境配慮型製品・技術の開発	—	339,453	—	406,654
(5) 社会活動における環境保全コスト(社会活動コスト)	公益信託 エスペック地球環境研究・技術基金への助成*	570	9,172	1,800	9,016
(6) 環境損傷に対応するコスト(環境損傷コスト)		—	—	—	—
合計		14,551	482,804	49,920	553,119

* 2017年度費用分から、公益信託への助成実績を計上することとしました

(単位:千円)

項目	2017年度	2018年度
当該期間の投資額の総額	595,574	943,437
当該期間の研究開発費の総額	1,003,098	1,146,537

■環境保全対策に伴う経済効果

(単位:千円)

効果の内容		金額
収益	リサイクルにより得られた収入額	12,801
費用削減	省エネルギーによる費用削減	-390

※ -付きの値は増加分

■環境保全効果

効果の内容	環境保全効果を表す指標		
	指標の分類	指標の値	
(1) 事業活動に投入する資源に関する効果	電力の使用	2017年度	2018年度
	電力消費量(千kWh)	17,617	17,640
	削減量(対前年度比)(千kWh)		-26
	原単位(千kWh/億円)	48.4	47.2
	原単位での削減率(対前年度比)(%)		3
(2) 事業活動から排出する環境負荷および廃棄物に関する効果	廃棄物の排出	2017年度	2018年度
	発生総量(t)	17.2	1.3
	削減量(対前年度比)(t)		92
	原単位(kg/億円)	47.2	3.6
	原単位での削減率(対前年度比)(%)		92
	売上高(億円)	363.7	373.8

※ -付きの値は増加分

※ 廃棄物は、事業所内で発生した埋立廃棄物の合計

OUTLINE

会社概要 (2019年3月31日現在)

創業	1947年7月25日
設立	1954年1月13日
資本金	6,895百万円
証券市場	東京証券取引所 第一部
発行済株式総数	23,781,394株
従業員数	1,520名(連結)

事業所

本社

530-8550 大阪市北区天神橋3-5-6
Tel:06-6358-4741 Fax:06-6358-5500

首都圏オフィス

105-0004 東京都港区新橋5-14-10
新橋スクエアビル6F
Tel:03-6402-3591 Fax:03-6402-3594

神奈川オフィス

211-0041 神奈川県川崎市中原区下小田中1-29-12
Tel:044-740-8450 Fax:044-797-0073

大阪オフィス

572-0072 大阪府寝屋川市太閤東町15-8
Tel:072-834-1191 Fax:072-834-7755

宇都宮テクノコンプレックス

321-3231 宇都宮市清原工業団地23-1
Tel:028-667-8730 Fax:028-667-8733

仙台営業所

981-3135 仙台市泉区八乙女中央2-2-22
Tel:022-218-1891 Fax:022-218-1894

高崎営業所

370-0073 群馬県高崎市緑町3-16-6
Tel:027-370-3541 Fax:027-370-3542

静岡営業所

422-8066 静岡市駿河区泉町7-26
Tel:054-654-6570 Fax:054-654-6571

名古屋営業所

465-0095 名古屋市名東区高社2-250
Tel:052-777-2551 Fax:052-777-2575

滋賀営業所

520-3047 滋賀県栗東市手原3-4-6
Tel:077-551-2275 Fax:077-551-2276

福岡営業所

812-0016 福岡市博多区博多駅南4-10-12
Tel:092-471-0932 Fax:092-474-3500

つくばランチ

305-0035 茨城県つくば市松代1-11-10
Tel:029-854-7805 Fax:029-854-7785

西東京ランチ

186-0003 東京都国立市富士見台4-2-10
Tel:042-501-2571 Fax:042-501-2573

厚木ランチ

259-1117 神奈川県伊勢原市東成瀬36-5
Tel:0463-94-9433 Fax:0463-94-6542

金沢ランチ

920-8203 金沢市鞍月3-115
Tel:076-268-1891 Fax:076-268-1893

広島ランチ

731-0153 広島市安佐南区安東1-1-42
Tel:082-832-8065 Fax:082-832-8068

神戸R&Dセンター

651-1514 神戸市北区鹿の子台南町5-2-5
Tel:078-951-0960 Fax:078-951-0967

福知山工場

620-0853 京都府福知山市長田野町1-7
Tel:0773-27-3131 Fax:0773-27-1132

バッテリー安全認証センター・宇都宮試験所

321-3231 宇都宮市清原工業団地23-1
(宇都宮テクノコンプレックス内)
Tel:028-667-8735 Fax:028-667-8733

豊田試験所

471-0844 愛知県豊田市聖心町3-44-1
Tel:0565-25-3364 Fax:0565-25-3365

刈谷試験所

448-0034 愛知県刈谷市神明町1-3
Tel:0566-62-8380 Fax:0566-62-8385

神戸試験所

651-1514 神戸市北区鹿の子台南町5-2-5
(神戸R&Dセンター内)
Tel:078-951-0961 Fax:078-951-0967

エスペックグループ〈国内〉

エスペックテストシステム株式会社

658-0045 神戸市東灘区御影石町1-6-6
Tel:078-856-5181 Fax:078-856-5186

エスペック九州株式会社

802-0062 福岡県北九州市小倉北区片野新町2-6-15
Tel:093-941-1731 Fax:093-921-2822

エスペックミック株式会社

480-0138 愛知県丹羽郡大口町大御堂1-233-1
Tel:0587-95-6369 Fax:0587-95-4833

エスペックグループ〈海外〉

ESPEC NORTH AMERICA, INC.

4141 Central Parkway, Hudsonville, MI 49426, U.S.A.
Tel:(1) 616-896-6100 Fax:(1) 616-896-6150

SHANGHAI ESPEC ENVIRONMENTAL EQUIPMENT CORP.

1518 Hao, Hua xin Zhen Hua zhi Road, Qing pu Qu, Shanghai, 201708, P.R. China
Tel:(86) 21-69791178 Fax:(86) 21-69791213

ESPEC ENVIRONMENTAL EQUIPMENT (SHANGHAI) CO., LTD.

Unit A, 5F, Building B, No.207, Songhong Road, Changning District, Shanghai, 200335, P.R. China
Tel:(86) 21-51036677 Fax:(86) 21-63372237

ESPEC TEST TECHNOLOGY (SHANGHAI) CO., LTD.

Room 101, Building 2, No.1295, ChuanQiao Road, Pudong New Area, Shanghai, 201206, P.R. China
Tel:(86) 21-68798008 Fax:(86) 21-68798088

ESPEC TEST EQUIPMENT (GUANGDONG) CO., LTD.

101, 16Hao Meide 2 road, Zhujiang gongye yuan, Zhujiangjie, Nan sha Qu, Guangzhou City, Guangdong, 511462, P.R. China
Tel:(86) 20-84528102 Fax:(86) 20-84528107

ESPEC (CHINA) LIMITED

ESPEC KOREA CORP.
(Hyeongok Industrial Park)67, Hyeongoksandam-Ro, 93 Beon-Gil, Chongbuk-Eup, Pyeongtaek-City, Gyeonggi-do, 17812, Korea
Tel:(82) 31-686-8523-5 Fax:(82) 31-686-8526

ESPEC ENGINEERING (THAILAND) CO., LTD.

700/860, Amata City Chonburi Industrial Estate (Phase8) Moo.5, Tambol Nongkakhha, Amphur Panthong, Chonburi 20160, Thailand
Tel:(66) 3-810-9353 Fax:(66) 3-810-9356

ESPEC ENGINEERING VIETNAM CO., LTD.

Room 8, 9th Floor, VIT Tower, 519 Kim Ma Street, Ngoc Khanh ward, Ba Dinh District, Hanoi, Vietnam
Tel:(84) 24-22208811 Fax:(84) 24-22208822

ESPEC EUROPE GmbH

Balanstr. 55, D-81541 Munich, Germany
Tel:(49) 89-1893-9630 Fax:(49) 89-1893-96379

■ サステナビリティレポート企画・編集発行

エスペック株式会社 コーポレートコミュニケーション部
サステナビリティレポート編集委員

■ サステナビリティレポートについてのお問い合わせ窓口

エスペック株式会社
Tel:06-6358-4744 Fax:06-6358-4795
E-Mail:csr@espec.co.jp

エスペック株式会社

530-8550 大阪市北区天神橋 3-5-6
Tel:06-6358-4741 Fax:06-6358-5500
<https://www.espec.co.jp/>



エスペックは気候変動キャンペーン「Fun to Share」に賛同しています

